

奈良市第5次総合計画

市民参画成果報告書

令和元年 11 月

奈良市総合政策課

《 目 次 》

I. 実施概要	1
1. 実施目的	1
2. 実施概要	1
II. 市民ワークショップ	2
1. 実施概要	2
2. 参加者の状況	3
(1) 市民ワークショップ	3
(2) 職員ワークショップ	3
3. 市の現況	4
4. ころほぐし（アイスブレイク）	4
5. ワーク 10年後の私、10年後のまち	5
(1) ワーク① 10年後のわたし	6
(2) ワーク② 10年後のまち	9
(3) ワーク③（10年後の市役所）※職員WSのみで実施	12
6. 全体共有	12
III. 編集会議	13
1. 実施概要	13
2. ワークショップ意見の分類	14
(1) わたし・まちカード	14
(2) 市役所カード	29
3. 意見の集約	30
(1) わたし・まちカード	30
(2) 市役所カード	30
4. 編集作業	31
(1) わたし・まちカード	31
(2) 市役所カード	33
5. 結果	34
IV. 出張インタビュー	35
1. 実施概要	35
2. アンケートボードの結果	36
3. メイキットの結果	39
V. 活動団体インタビュー	42
1. 実施概要	42
(1) 実施時期及び対象団体	42
(2) 主な質問項目	42
2. 結果の概要	43

(1) 奈良市自治連合会	43
(2) 奈良市自主防災防犯協議会	45
(3) 奈良市地区社会福祉協議会会長会	46
(4) 奈良市民生児童委員協議会連合会	49
(5) 奈良市保育会、公立こども園会、奈良市私立幼稚園協会	51
(6) 奈良市地球温暖化対策地域協議会	54
(7) 公益社団法人 奈良市観光協会	56
(8) 奈良商工会議所青年部 (YEG)	57
(9) 公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構	60
(10) 地域教育協議会 (総合コーディネーター)	62
VI. 市民意識調査	65
1. 調査概要	65
2. 調査結果	66

I. 実施概要

1. 実施目的

総合計画の策定段階から積極的に市民参画を図るため、様々な手法によって市民の声を取り入れる機会を設け、市民、活動団体、市職員など様々な世代の多様な人材が関わるなかで、奈良市をどんなまちにしていきたいかを発信してもらい、その思いをもとに、まちの将来像などを設定する「未来ビジョン」等の作成をはじめ、全庁的な計画策定へつなげていく。

2. 実施概要

それぞれの実施概要については下記の通りである（詳細については後掲）。

市民参画手法とその概要

名称・手法	概要
【市民】	
市民ワークショップ (編集会議を含む)	今後 10 年間で目指す奈良市の将来像について、公募した市民どうしで話し合うワークショップを開催した。また、その思いを言葉にまとめる編集会議を実施した。
出張インタビュー	人が集まるオープンな場やイベントなどへ出向き、広く一般市民の意見を直接聞く機会を設けた。
市民意識調査	定期的に実施している市民意識調査を通じて、市政に対する市民の満足度やニーズを把握した。
【活動団体】	
活動団体インタビュー	各種分野において公益的な活動を行っている団体や事業者から、専門的見地に立った現状や将来の見通し等の声を集めた。
【市職員】	
※職員対象だが市民ワークショップの内容と一体であるため、本報告書の市民ワークショップの項目内に併記している。	
職員ワークショップ	今後 10 年間で目指す奈良市の将来像やその実現のための市役所のあり方について、職員自身が考えるワークショップを開催した。

II. 市民ワークショップ

1. 実施概要

冒頭で市職員から市の現状などについて簡単な説明を行った後、数人ずつのグループに分かれ、意見交換をしながら「10年後の自分や住みたいまちの姿」について考えるワークショップを実施した。公募市民が参加するワークショップ6回その他、市職員対象のワークショップも実施した。

名称：わたし×マチ 2030

実施期間：令和元年9月14日（土）、21日（土）、28日（土）（全6回）
10月2日（水）（職員ワークショップ）

会場：市内6地域（下表）

参加状況：下表のとおり（属性情報については後掲）

市民ワークショップの概要と参加者数

回 種別	日時	会場	参加者数
1 市民	9月14日（土） 9時30分～12時	北部会館 第2・3会議室	24人
2 市民	9月14日（土） 14時30分～17時	奈良市役所中央棟 正庁	41人
3 市民	9月21日（土） 9時30分～12時	都祁交流センター 研修室・実習室	34人
4 市民	9月21日（土） 14時30分～17時	西部公民館 第1・2研修室	29人
5 市民	9月28日（土） 9時30分～12時	奈良市役所中央棟 正庁	28人
6 市民	9月28日（土） 15時30分～18時	興東公民館ホール	31人
		小計	187人
7 職員	10月2日（水） 13時30分～17時	奈良市役所北棟 第22会議室	46人
		合計	233人

プログラム：1. 開会

2. 奈良市の現状について

3. 今日のワークショップの概要について

4. ころほぐし（グループ全員に共通するおもしろい共通項探し）

5. ワーク① 10年後、どんな自分でありたいか／何をしたいか

6. ワーク② 10年後、住みたいまちの姿

7. 全体発表

8. 記念撮影

※職員ワークショップでは「ワーク③ 10年後の奈良市役所の姿」も追加で実施

2. 参加者の状況

各回の参加人数と属性は下記の通りである。

(1) 市民ワークショップ

公募により10代の高校生から70代以上まで幅広く各年代から参加があった。

○市民ワークショップ参加人数

		参加人数	内訳（年齢別）							内訳（性別）		
			10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	男性	女性	
9月14日	①	北部会館	24	1	3	5	6	5	2	2	15	9
	②	正庁	41	0	11	4	7	5	5	9	26	15
9月21日	③	都祁交流センター	34	1	2	7	3	4	9	8	23	11
	④	西部公民館	29	0	3	5	5	5	4	7	17	12
9月28日	⑤	正庁	28	1	9	4	1	5	2	6	19	9
	⑥	興東公民館	31	0	0	0	5	4	18	4	28	3
		計	187	3	28	25	27	28	40	36	128	59

(2) 職員ワークショップ

若手から中堅層を中心に、推薦や立候補等により各部局から参加があった。

【所属別】

危機管理課	1
総合政策部	2
総務部	3
市民部	4
福祉部	8
子ども未来部	3
健康医療部	2
環境部	2
観光経済部	2
都市整備部	2
建設部	2
教育委員会	8
企業局	4
消防局	2
会計課・各種委員会	1
計	46

【補職別】

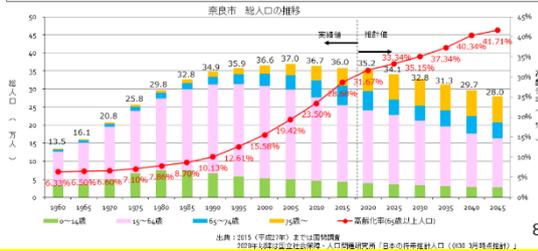
補佐級	1
係長級	12
主務	8
指導主事	1
主事	19
事務員	5
計	46

3. 市の現況

奈良市の置かれている現況と、人口減少等の今後想定される事象について、市から説明を行った。

3. 奈良市のあゆみ～人口推移～

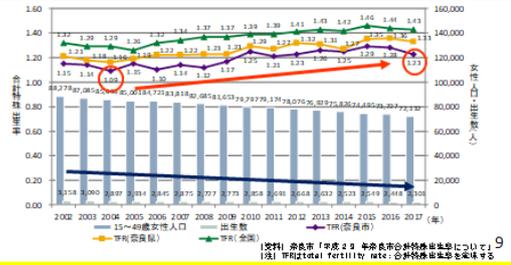
- ・人口は、2005年に月ヶ瀬村・都口村と合併してピークを迎えましたが、2040年にはおよそ1980年の水準まで減少します。
- ・0～14歳の若年層は1990年から減少し、2030年にはおよそ1960年の人口まで減少します。
- ・高齢化率は、2030年には35%に到達、中でも75歳以上の人口は増加を続け、2020年には75歳以上の人口が、65～74歳の人口を上回ります。



8

4. 奈良市のイマ～合計特殊出生率～

- ・奈良市の合計特殊出生率^(※)は、全国・奈良県と比べると低い水準にありますが、2004年の1.09から改善傾向にあり、2017年には1.23となりました。
- ・出生数は減少傾向にあります。



9



4. こころほぐし (アイスブレイク)

はじめての参加者同士でスムーズに意見交換が進むよう、こころほぐし (アイスブレイク) として、同じテーブルの参加者全員に共通する点を探すゲームを実施した。初対面かつ世代も異なるメンバー同士が自己紹介を兼ねてお互いの共通点を探していく中で、「奈良市のこと大好きである」「ベッドではなく布団で寝ている」「関西人なのに納豆が好き」「スポーツ経験者である」といった共通点が見つかり、全体での発表も行われた。



5. ワーク 10年後の私、10年後のまち

2種類のワークを通じて、10年後の自分の姿と、10年後の奈良市のまちの姿を想像し、その両方の思いや発想をつなぐ試みを実施した。参加者一人ひとりが想像した姿を、参加者同士で共有することで、より考えを深め、世代や職業などからくる違いや多様性も認識することを企図している。

▼ワークの流れ

ワーク① 10年後の私を想像する

10年後自身が何をやっていきたいか、どのような自分でありたいかを想像し、カードに記入のうえ、グループで共有

10年後のわたしは

仕事をしながらも、体を動かすなど、
将来に備えて健康的な生活

でありたい/
をしていきたい



ワーク② 10年後のまちを想像する

ワーク①で記入した10年後の私を実現するために、10年後のまち(奈良市)がどうあってほしいかを想像し、カードに記入のうえ、グループで共有

だから、10年後のまちは

気軽にスポーツができる
場所がたくさんある

まちになってほしい



全体共有

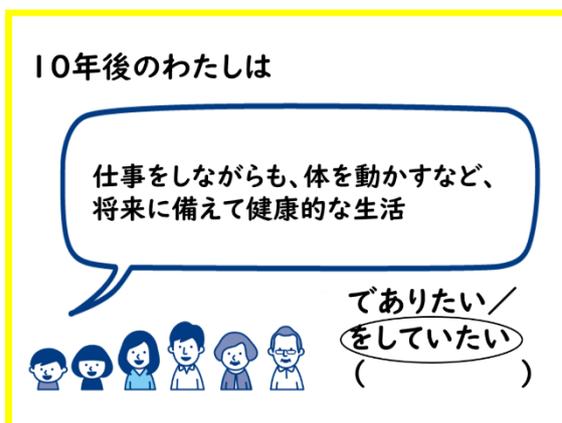
参加者全員で円になり、10年後の私と、10年後のまちについて、会場全体で奈良市への思いを共有



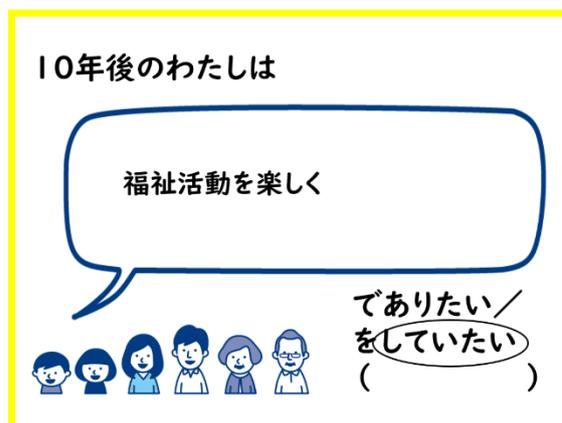
(1) ワーク① 10年後のわたし

総合計画の期間 10 年間に合わせて、参加者一人ひとりが 10 年後どうありたいか、何をしたいかについて考え、カード（わたしカード）に記入した。そのカードをテーブル内で共有し、それぞれがどんな未来を描いているかを共有した。

▼わたしカードの記載例



▼わたしカード記入の様子



▼わたしカード共有の様子



各回で出た「10 年後のわたし」の特徴は下記の通りである。

第 1 回の北部会館では若い方からお年寄りまでバランスよく参加されていたため、子育て、しごと、くらしに関わる意見がバランスよく出された。第 2 回の市役所正庁では 20 代の参加者が最も多く、これからの仕事に関する意見や、将来の夢に関する意見が多く出た。第 3 回の都祁地域では、農業に携わっている人もおり、ゆったりした生活を守りたいという意見や、将来の交通手段の確保についての不安の声もあった。第 4 回の西部公民館では、比較的高齢者が多く参加されていたが、運動や趣味等で健康的な生活を維持していきたいという声が多く聞かれた。第 5 回の市役所正庁では、車いすの方が複数名おられ、障がい者福祉、高齢者福祉についての意見が比較的多く出た。第 6 回の興東公民館は参加者における男性の比率が高く、平均年齢も高かったが、農作業等を通じて、地域と繋がってほしいという声が多かった。職員ワークショップでは、同じ職場のメンバーが集まったため、仕事の話が多く見られたが、同時に子育てや趣味の話も多く見られ、働き方・生き方についての意見交換が活発になされた。

▼各回の主な意見

【第1回 北部会館】

- 子どもと元気に遊んでいたい
- 学んできたことを活かせる仕事をしていたい
- まずは健康であること
- サッカーをしていたい



【第2回 市役所正庁】

- 情熱大陸に出演したい
- 家族と夢のマイホームを建てたい
- 国際人でありたい
- 人の役に立つ仕事をしていたい



【第3回 都祁交流センター】

- 車の運転ができること
- 大和高原ブランド米の定着
- 現在の体力を保ちたい
- ゆったりと生活したい。



【第4回 西部公民館】

- 英語ボランティアガイドを続けていたい
- 元気でジョギングをしていたい
- 家族を支えて健康的な生活をしていたい
- 将来を担う若者の手助けがしたい



【第5回 市役所正庁】

- 友人を案内できる名所が欲しい
- 現役で仕事をしていたい
- スポーツ（水泳）をしていたい
- 地域の中で健康で頑張りたい



【第6回 興東公民館】

- 80歳になっても若いと言われたい
- 猪・シカ猟を効率的にやりたい
- 健康でゴルフをしていたい
- 地域産業（梅・茶）を次世代に継承したい



【第7回 職員WS】

- 趣味を楽しんでいたい
- 仕事と子育ての両立をしてほしい
- 大学でもう一度学びなおしをしてほしい
- 子どもと一緒に全力で遊びたい



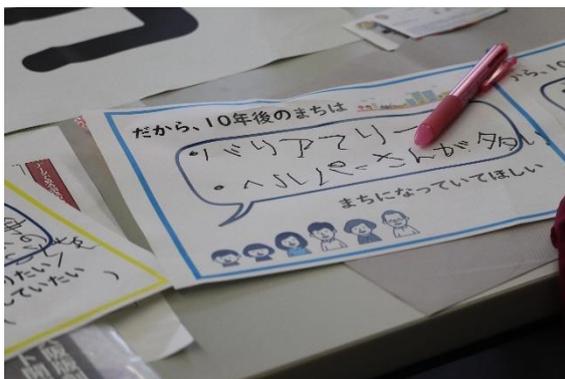
(2) ワーク② 10年後のまち

第二のステップとして、わたしカードに記載した内容を実現するために、10年後のまち（奈良市）はどうなっていてほしいか、まち（奈良市）をどうしていきたいかについて考え、カード（まちカード）に記入した。そのカードをテーブル内で共有し、どんな条件があれば、叶えたい未来を実現できるかを共有した。

▼まちカードの記載例



▼まちカード記入の様子



▼まちカード共有の様子



各回で出た「10年後のまち」の特徴は下記の通りである。

第1回の北部会館では雇用環境や創業支援に関する意見や、思いを持っている人がその思いを実現できるまちという意見が多く見られた。第2回の市役所正庁では男女共同参画、多文化共生についての意見のほか、特に交通インフラについての意見が多く出た。第3回の都祁地域では、農業についての意見の他、静かな環境を維持したいという意見があった。第4回の西部公民館では外とのつながりや調和といった内容の記述が見られた。第5回の市役所正庁では、バリアフリーや、健康維持についての積極的な意見が多く出された。第6回の興東公民館では、若い人たちが帰ってくるまちにしたいという意見と共に、日常生活の不便を感じない街にしたいという意見があった。職員ワークショップでは、働き方に対する自由度や、子育てのしやすさについての意見が多く見られた。

▼各回の主な意見

【第1回 北部会館】

- 近所の親子と気軽に交流できるまち
- 元気に生活する 100 歳がたくさんいるまち
- 移動が便利なまち
- 住んでいる人がチャレンジできるまち



【第2回 市役所正庁】

- より教育が受けやすいまち
- 男女関係なく就職率がよいまち
- 市民の希望が反映されるまち
- バリアフリーが進んでいるまち



【第3回 都祁交流センター】

- 人の夢を応援できる人が集まるまち
- 農業で暮らせるまち
- 好きなことを話し合える場所があるまち
- いまのまま、落ち着きのあるまち



【第4回 西部公民館】

- 外から来た人も繋がりがやすいまち
- 若者が相談できるしくみのあるまち
- 障がいがあるなし、お年寄りも共生できるまち
- 自然・歴史と調和したまち



【第5回 市役所正庁】

- 共働き世帯も子育てしやすいまち
- 奈良のよいところを発信・アピールできるまち
- 市民の健康をはぐくむまち
- 障がい者が自由に出かけられるまち



【第6回 興東公民館】

- ボーダーレスなまち（年齢・性別・地域等）
- 産業が発展し、若者が戻ってくるようなまち
- 子どもがたくさんいるまち
- 田舎にやさしいまち



【第7回 職員 WS】

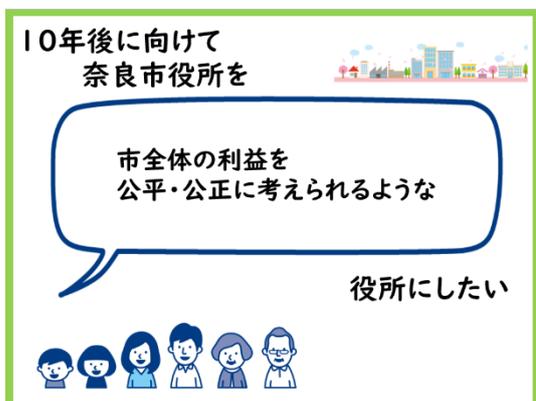
- 子育て支援が充実したまち
- 長期休暇を取るのがあたりまえのまち
- ライフスタイルが多様なまち
- 災害に強いまち



(3) ワーク③(10年後の市役所)※職員WSのみで実施

職員ワークショップでは3つ目のステップとして、10年後の奈良市役所をどうしていきたいかについて考え、カード(市役所カード)に記入した。そのカードをテーブル内で共有し、どんな思いで職務に当たっていくかをグループでひとつの案にまとめて発表した。

▼市役所カードの記載例



▼主な意見

- ビジョンを共有し、前例にとらわれずチャレンジできる役所
- 脱アナログ・ハンコ・作業のムダゼロ(RPA)の役所



6. 全体共有

ワーク①(わたしカード)とワーク②(まちカード)に記載した内容について、参加者全体で一つの円になって、共有を行った。それぞれの思いをお互いに聴きあいながら、10年後のまちの姿を想像する時間になった。



III. 編集会議

1. 実施概要

市民ワークショップで話し合った市民の「10年後も住みたいまち」を反映しながら、奈良市の未来ビジョンをまとめる場として、編集会議を実施した。

実施期間：令和元年10月5日（土）

会場：ならまちセンター 2F 多目的ホール

参加状況：市民ワークショップ各回と職員ワークショップの参加者から2名ずつ、計14名

プログラム：

1. 開会
2. 他の市民参画の実施状況について
3. 本日のワークショップの流れ
4. 各回の雰囲気共有
5. 編集① 「まちカード」をカテゴリー分けして言葉にまとめる〔各グループ〕
6. 編集② ①をカテゴリー別で全班分をまとめ「まちの方向性」をつくる〔全員〕
7. 編集③ ②を一つにまとめ「都市の将来像」をつくる〔全員〕
8. 記念撮影

※職員WSの追加テーマ分（10年後の市役所の姿）については別途10月16日（水）に職員ワークショップ参加者の代表2名と事務局にて分類及び、言葉への集約成文を実施。



2. ワークショップ意見の分類

(1) わたし・まちカード

市民ワークショップ6回と、職員ワークショップで出た意見を、ひとづくり（子育て・教育）、くらしづくり（生きがい、福祉・健康、地域活動）、しごとづくり（観光、産業、労働）、まちづくり（都市基盤、環境・衛生、安全・安心）の区分で分類・整理した。

▼意見の分類方法



▼分類している様子



各班が上記の方法に沿って分類した結果が下表である。

●9/14①北部会館

分類	10年後のまち	10年後のわたし
ひとづくり	1 子育てがしやすいまち	← 子供と色々なところに旅行をしていきたい
	2 地域交流が活発で子育てが楽しいまち	← 子育てのためまちと山間部の連携を進めていきたい
	3 近所の親子と気軽に交流できるようなまち	← 子どもと元気に遊んでいたい
しごとづくり	1 未来に生きる人たちを第一に考えるまち 歴史にとらわれないまち	← 安心して仕事をしていきたい
	2 条件の良い雇用が多いまち	← 会社で頼られる人でありたい
	3 誰でもどんな人でも働きやすいまち	← 今まで学んできた事を活かせるような仕事をしていきたい
	4 産業が活発で文化も豊かな、いきおいのあるまち	← 健康で楽しく仕事をする兼業主婦でありたい
	5 住んでいる人がチャレンジでき、それを歓迎できる雰囲気のあるまち	← 自分の知らないことにチャレンジしたり、新しい発見がある生活をしていきたい
くらしづくり	1 歴史、自然、まち、ヒトを全て活かして攻め続けるまち	← 必ず現場に足を運ぶ人でありたい
	2 誰でもどんな人でもくらしやすいまち	← 今まで学んできた事を活かせるような仕事をしていきたい
	3 AIの社会になっても人間にしか出来ない人間の心を忘れず、みんなに優しい思いやりの社会のまち	← ・生存しているならば健康で元気で自分のことができるように ・子どもの世話にならないようがんばりたい
	4 みんなでみんなのことを考えて、それが実現できるまち	← いろいろな人が自由に自然に集まることのできる場所づくりをしていきたい
	5 元気に楽しく生活している100歳の方がたくさんいるまち	← ・まずは健康であること ・福祉の経験を活かし地域に貢献できるコミュニティを創っている
	6 バリアフリーの完備 全国的な会議（全国女性会議）を奈良市で開催出来るようなまち	← 健康でボランティア活動を続けていきたい
	7 環境と社会の持続可能性において世界のモデルになれるオープンなまち（アメリカのポートランドのような・・・）	← 世界のいろいろな所で暮らしながら自分の拠点である奈良の魅力を伝えられる人でありたい
	8 ほどよい いなかなまち	← 現役で仕事をしていきたい
	9 市民の声がすぐ届く行政システム 自分の暮らし自分でつくる市民意識	← ・FMの番組を持ちたい ・公園でロックフェスをしていきたい ・ベッドタウンの特性を活かし、くつろぎのある豊かな暮らしを実現したい
	10 もっと統一性のあるまち	← 憎まれ爺になりたい
11 元気で明るく頼られるお年寄りがたくさんいて、子ども達もお年寄りを大事にするまち	← 明るく元気に健康で地域（地元）に貢献していきたい	
まちづくり	1 芝（人工芝）のグラウンドが増え、小・中学校等の公共施設に照明を設置し市民がスポーツをする環境の整ったまち	← サッカーをしていきたい
	2 車を使わなくても往来が楽なまち	← 奈良・京都・東京の他に海外にも煎茶道の拠点を持ち始めたい
	3 移動が便利なまち	← 地域とエンジニアと一緒に活動をしていきたい
	4 奈良に大企業ができ、人口増加、きれいな住宅街がたくさんできて皆な幸せに暮らすまち	← きれいな住宅街に一軒家を建てて、子ども夫婦と隣に住み、毎週お庭でBBQをして幸せに暮らしている
	5 みんなで創る美しいまち	← おいしい野菜を作って（公園で）いたい
	6 個性あるエリアリノベーション	← ・FMの番組を持ちたい ・公園でロックフェスをしていきたい ・ベッドタウンの特性を活かし、くつろぎのある豊かな暮らしを実現したい
	7 身近なまちに「学び活動できる場」があって、「奈良生まれ」に誇りをもてる便利なまち（図書館、公民館）	← こどもたちとまなびをたのしみ奈良でしずかに生活をしていきたい

北部会館でのWSの様子



●9/14②正庁

分類	10年後のまち	10年後のわたし
ひとづくり	1 待機児童の問題が解消すればパートさんが働きやすい環境になる	← 家族を1週間ぐらいの海外旅行につれて行きたい
	2 子育てのしやすい、また、住んでいる街が活き活きとして安全安心で暮らせるまち	← 健康で元気でいて、つながりのある生活の中の一員でありたい
	3 子育てのしやすい環境と支援体制が整っているまち。個々に問題が違うので、きめ細かい対応ができるように、人材も環境も整っているまち	← 元気で子育て支援のボランティアをしたい
	4 個人と地域が密接に関わり、より教育が受けやすいまち	← 学芸員となり、文化財の保護普及に関わっていきたい
	5 女性が働きやすいまち（福祉制度、子育て支援、...）	← 優しい旦那さんと可愛い子どもと奈良市で幸せに暮らしたい
しごとづくり	1 人口増加（大学生への奈良アピール）に伴う正社員雇用の増加を実現できるまち	← 正社員で就職して一人暮らし（できれば図書館司書or学芸員）
	2 最低賃金が日本一高いまち	← 情熱大陸に出演したい
	3 VISITERの立場に立ったまち	← 大阪、京都に負けない奈良の魅力を発信するHP制作・YOUTUBER
	4 ・遺産ではなく歴史・文化が生活に今も息つき溶け込んでいるまち ・大仏商法から都商法へ	← 現在の仕事（観光関係）を継続し、観光産業を支える人材を育成したい。（事業継承含む）
	5 皆が助け合えるまち	← 市役所で部下を持って仕事をしていきたい
	6 ・来訪者に好印象を抱かせる景観・環境の形成（駅等） ・地域で高齢者を見守る町	← ・自宅で最期をむかえたい ・近鉄奈良駅周辺の景観改善を見とどけたい
	7 男女関係なく就職率が良いまち	← 働いていたい
	8 働く場に困らず、都会も田舎も感じられる利便性のある、おだやかな環境のまち	← 奈良市で楽しく生活していきたい
	9 海外の方がみんな満足してくれるまち	← 世界一周旅行をしたい
	10 自然と歴史が共生し、景観を意識したまち	← 歴史資料を活用して地域貢献
くらしづくり	1 奈良市の財源を豊かにさせ、医療・福祉・学業を日本で2位にまで伸ばす希望のあるまち（まずは金ですか）	← 現在と変わらず町内会の役職を行い、また、ボランティア活動に参加している。
	2 古都らしい景観を再生し、地域の絆を感じるまち	← 健康生活を維持して地域活動を続けたい
	3 私のみならず、想いの叶えられるまち	← 心身共に充実し、奈良のまちの発展に寄与する私でありたい
	4 市民一人ひとりが地域に誇りを持ち、さらに地域愛があふれ、人が自身に誇りを持ち活躍できるまち	← 個性と価値観を尊重することができ、まちの持つ魅力を知り尽くした自分でありたい
	5 市民の希望が反映されるまち	← 趣味を楽しんでいたい。
	6 一人住まいの人が、隣り近所の人とコミュニケーションがとれるよう、個人の家でもホームとなるような制度があれば良い。また、防災に強い町になるよう防災公園の整備が進んでいけば良い。	← 元気に自立した生活をし、日本中をドライブしたい。地域のためには施設や広場の清掃、維持管理のお手伝いをしていきたい。
	7 30分だけ子ども預かれます。植木の水やり、明日だけお願いします。が気軽に言えるようなまち	← ちょっとお手伝いしながらのんびり暮らす
	8 誰からも愛される。ずっと住み続けたいまち	← 奈良市で家族と夢のマイホームを建てたい。
	9 みんなが趣味に時間を費やし、楽しく生活できるまち	← 心も体も健康でありたい
	10 今までの奈良を活かした景観やグルメ、芸術等を魅力的に発信、アピールし、人と人のコミュニケーションがとれるまち	← いろんな所に旅をして、その場所での人のコミュニケーションや地元のグルメを楽しんでいたい。

分類	10年後のまち	10年後のわたし
まちづくり	1 ハーバード分校のあるまち	← 国際人でありたい
	2 おいしいお店が沢山あるまち	← みんなでおいしくお酒をのんでいた
	3 ・CO2ゼロで市民が健康なまち。 ・エネルギーは再生可能エネルギー100%、移動は自転車、EV ・公園にストレッチマシン、無料で身体を動かす予防医学を大切にするまち	← RE100で自給自足。無駄でアホなことを無料ボランティアで道楽する。ゼニ、カネで動かさず道楽で動く。
	4 地域が主役の住民自治（まちづくり）がいきいきと展開され、行政との協働のまちづくりが結実したまち	← 帯解のまちで、ゆったりと安心して余生を楽しんでいた
	5 ・道路が整備され動きやすくなっているまち ・町内にタウンバスが走っているまち	← 健康であり、活動できる体でありたい。
	6 免許証を返納した後も外出しやすい交通システムや施設、イベントのあるまち	← 健康を保持し、趣味を楽しみ、毎日笑顔でありたい。
	7 夜景がきれいなまち	← 空を飛んで、上空より自宅を見たい。
	8 地域の人々が自由に気楽に集まれる場所、仕組みがあるまち	← 酒屋のおやじ（みんなで楽しく遊ぶ）
	9 元気に楽しく100歳まで！ 高齢者がいきいき暮らせるまち	← オトナが楽しめるコミュニティサロンを創っています。
	10 どんな面でもバリアフリーが進んでいるまち	← 今は介護者が減っているけど、障がいがあっても、高齢になっても、いままでどおり車イスで行きたいところに行ったり、自分の家で暮らしている。
	11 外国人も障がいを持った人も被差別部落の人でも女性も高齢者も子どもも住みやすく共生できるまち	← 差別のない社会でいきいきと過ごしていきたい。
	12 計画的なインフラ整備で住みよい町になり、U/Iターンにより人口増加（60歳くらいで引退）	← 健康で幸せ、趣味を見つけ没頭していきたい。
	13 住みよい奈良、買い物難民にならないように、不便を感じないまち	← 健康寿命を越えても一人で生活していきたい。近所と仲良くしたい。一人暮らしが多くなると思います。
	14 国際学会都市（環境と教育）奈良の強みを生かすまち	← 将来を担う若者の夢へのバックアップ
	15 飛行場のあるまち	← 人の役にたつ仕事をしていきたい。

市役所正庁でのWSの様子



分類	10年後のまち	10年後のわたし
まちづくり	1 交通の便が良く、仕事がたくさんあるまち	← 持ち家に住んで共働きをしたい。
	2 東部山間はイノベーション特区化。起業や新しいチャレンジがしやすい、そしてブロックチェーンなど活用した地域還元型の経済自立のまち	← 旧六郷小を活用。地元の人も気軽に来れる、文化・教育事業を書店を軸にして、デンマークのイノベーション教育と連動して経営していきたい。
	3 適正な人口規模（年齢構成）で住む人が使いやすい交通・物流・インフラのあるまち	← 田舎に住んで都市と交流していきたい。
	4 公共交通機関が充実しているまち 仕事、買い物、教育機関、病院等に行きやすいまち	← 元気で暮らしていきたい。 食事、掃除、買物、外出等が自分のできるようになりたい。
	5 ・リニアモーターカーに乗るための直通バスが都祁に来てほしい。 ・お年寄りに寄り添ったまちづくりをする。 ・自分の力で出来る事が可能な環境を整える。	← ・リニアモーターカーに乗って旅をしたい。 ・さっそうと元気で歩きたい。
	6 公共交通機関の充実（電車が走るまち、駅ができること）	← 車の運転ができること。
	7 落ち着いたのあるまちのままであってほしい。	← ゆったりと生活したい。
	8 災害対策が充実し、現在の豊かな自然環境が続くようなまち	← 収入を得るために、花・高原野菜を作り、ボランティア作業をしている。自給自足生活を楽しみ、自宅近くに露天風呂を作り、都会生活者に癒しの場を提供したい。
	9 空家等が無く、住民も多く、楽しく活気のある住みたくなるようなまち	← 好きなゴルフも仕事も現役以上でありたい。
	10 奈良が好きな〇〇〇が住みたい街。No.1を誇れるまち	← 誰かを助けられる自信と余裕を持った人でありたい。
その他	1 このままで良い	← 元気で仕事をしたい。

都祁でのWSの様子



●9/21④西部公民館

分類	10年後のまち	10年後のわたし
ひとつづくり	1 学校図書館にも司書が常駐することで、子どもの読書環境が整い、地域全体で子どもを育てるまち（戻ってきたい（故郷））	← 孫の世話をし、主人とGOLFをして大好きな絵本を読んだり美術鑑賞をしていたい。
	2 まちいっぱい子どもたちの笑顔があふれ、みんなが幸せに暮らせるまち	← 奈良を愛し、地球を持続可能にしていく人材教育をしていたい
	3 ちいさな子から年寄りまでの繋がりのある、住みよいまち	← 健康で日常生活していたい
	4 人がつながりやすいまち（よそもの私が…）	← 結婚し、ニート・引きこもり支援をしていたい。
	5 行政と宗教家、民間が一体となって教育する仕組みのあるまち。 世界の優れたビジネスマンを招聘し、奈良に来て、その子達のために教育に協力してもらいたい。セレブ達の大好きな街	← 虐待や親の愛情をあまり受けられない子ども達の教育を、宗教家、教育専門の方々、行政の方々と取り組むボランティア三昧の生活をしたい。
	6 子どもも大人も理想のまちを発信し実現していけるまち	← 子ども達と一緒にどうすれば奈良市が良くなるか考えていける自分でありたい。
しごとづくり	1 奈良で働く若者が自分の仕事の課題解決や発展について、話し合えたり相談できる仕組みのあるまち	← 奈良の中小企業が元気になるためのサポートを仕事にしたい
	2 労働人口が多く、起業支援制度が充実しているまち（補助金等）	← 起業をして経営者でありたい
	3 週休3日制、副業可、残業〇	← 副業をしていたい
	4 フレキシブルで充実したまち	← 奈良を拠点とした、パラレルキャリアの先導をしていたい
くらしづくり	1 老人にやさしいまち	← E. G. G（英語ボランティアガイド）を続けていたい
	2 障がいがある・なし、お年寄りが共生できるまち	← 福祉職以外の人に福祉のことを知るための活動をしていきたい。
	3 一般市民のボランティアイベントを育てる行政の支援が充実したまち	← まほろば月舞会20周年記念で全国から集まるダンスイベント
	4 自然環境を守り、豊かで、新しいもの、人を受け入れ尊重し、移住者を含め定住人口が増加した活気のあるまち	← 田舎暮らしをしつつ、想いや楽しみを共有できる仲間と何らかの活動をしていきたい。
	5 住んでいる事に魅力を感じるまち	← 仕事・家族・生活・関わる人々と充実した時間を共有していたい
	6 自転車と歩きで、ならの「歴史の道」を楽しく歩けるまち	← 健康寿命を延ばして、自分で歩ける状態でありたい
	7 便利で安全で暮らしやすいまち	← 年金で主人とゆっくり趣味
	8 面白くて笑顔とコミュニケーションがあふれる、自然と人とお金が循環して持続可能なまち	← 心身共に健康で、プライベートもビジネスも人に恵まれ、自然環境や人の健康と調和を大切に様々な仕事や取り組みがしたい。
	9 ご近所の顔が良く見える雰囲気の良いまち	← 家族を支えて健康的な生活をしていきたい。
	10 まちには元気な子どもや若者が楽しく生活できるまち	← 周りにいる人達に健康で楽しい人生を与えたい。
	11 子どもの明るい声が聞こえるまち。社会的弱者が真に大切にされるまち	← せめて90歳までは自分のことは人の世話にならず、自分自身でできるように、少しでも社会貢献がしたい。

分類	10年後のまち	10年後のわたし
まちづくり	1 環境問題を考える先進都市	← せめて90歳までは自分のことは人の世話にならず、自分自身でできるように、少しでも社会貢献がしたい。
	2 奈良の歴史と自然を守る活動に若者の参加が必要 心やすらぐまちになってほしい	← 緑・自然保護活動を続けてきた。現在、蒼池を守る活動を続けるのが大変になり、若い人の参加が必要。緑豊かな町でありたい。
	3 ・人に優しく、多様な人が活躍できるまち ・自然歴史と調和しているまち	← 幸せ&奈良が好き
	4 旧市街地（奈良公園を中心とした）だけでなく、関西屈指の住宅エリア（学園前を中心とした）が将来に亘って持続可能な、美しい花と緑にあふれたまち	← 美しい奈良の街を作り、奈良の素晴らしさを伝える活動をしていたい
	5 法律（建築基準法）条例をきっちり守る、守らせるまち	← 年金、貯金でゆっくり、安全に興味に生きていきたい。
	6 国際学会都市（観光と教育） ・奈良の遺産（宝）をも活かしたメリハリのある施策 ・ハーバード大学奈良分校 ・飛行場建設	← ・将来を担う若者への手助け、バックアップ ・ボランティアワークの継続 ・地域の発展
	7 健康のためにジョギングやウォーキングなど、運動する人が仕事が終わって気軽にできるように、着替えやシャワーが使えるような設備が整ったまち	← 元気でジョギングをしていたい。 できれば奈良マラソンでフルマラソン完走をしていたい。
	8 平城京にスタジアム、駅がある、わくわくするまち	← 枠にはまらない自由人でありたい。
	9 敷居が高くなく、簡単に低料金で誰もがすぐに使えるようなお店。人が集まるお店があれば、その店舗で趣味であるラジオブースを設け、音楽等発信できる。地域活性化等楽しいまち	← 世代分けへだてなく、皆が集まる（カフェ）店内で歌や音楽を発信できる、ラジオ番組ができるような店をしていたい。

西部公民館でのWSの様子



●9/28⑤正庁

分類	10年後のまち	10年後のわたし
ひとつづくり	1 空家などを利用して、高齢者・子ども達・若い子育て中のお母さん達と一緒に楽しめる場所があるまち	← 健康で、子ども達に世話をかけないで、楽しく生活をしていきたい。
	2 住みやすい、子育てしやすいまち (安全・教育・財政・・・)	← 良い親(子育てをやっているイクメン)子どもに成長してもらいたい。
	3 奨学金返済の援助をしてくれるまち	← 奨学金を返済して貯金をしていきたい
	4 今よりも子育てしやすい環境と教育環境の充実したまち	← 子ども達の居場所、「寺子屋・カフェ」のようなものの運営をしていきたい。
	5 待機児童ゼロ + 子ども園増で子育てしやすいまち	← 奈良市で家庭をもっていたい
	6 共働き目線も視野に入れた子育て支援の充実化 (待機児童問題、経済的支援、情報共有)	← 仕事と家庭を両立してイキイキしていきたい。
しごとづくり	1 外国人観光客がこれからも多く訪れるまち	← 奈良市の自然を守りたい
	2 今の良いところ(奈良公園・シカとの共生・寺・神社・自然・人)を守り続けて、大阪、京都と違った発信・アピールをして、持ち味を生かしたまち	← 家族と笑顔で楽しく生活をしていきたい。 (離婚せず子どもからも好かれながら)
	3 奈良らしさや奈良の資源を生かし、魅力を発信しつづけ周知されているまち	← 日々まちの魅力や良さを感じながら、好きなまちで生活していきたい。
	4 「演劇」で観光できるようなまち	← 「劇場」を運営しながら、演劇やエンタメ分野を盛り上げる人でありたい。
	5 若者が奈良にとどまって就職してもらえるまち	← 毎年、長期休暇をとって家族で旅行に行きたい。
	6 県と市、経営者との連携がとりやすいまち	← 現役で仕事をしていきたい。
	7 男性の育休も推進し、男性も女性も子育てをしながら働きつづけられるまち	← やりがいを持って仕事をしていきたい。
	8 遊園地、ショッピングモール、娯楽系の誘致、三条通りなどの観光系。JR・近鉄の合流駅	← 家族みんなで楽しく充実した生活をしていきたい。
くらしづくり	1 奈良市立の美術館があるまち	← 楽しく泊まりに来られる施設がほしい。友達を案内できるところがほしい。
	2 文化財を盗難などから守る条例がしっかりとあるまち	← 奈良県や奈良市内にある文化財を守っていきたい。
	3 少子高齢化を解決し、高齢者が心身の健康を維持し、高齢者にやさしい、また、子どもにやさしいまち	← 10年後の福祉・児童のまちづくりを見たい。
	4 高齢者にやさしいまち	← 10年後 93歳、いるとしたら健康でいたい。
	5 老人が元気、自分で出来ることは自分でするまち	← 健康、腰痛と一生付き合う。
	6 認知症の方が少ないまち	← 地域の中で、健康で頑張っていきたい
	7 市民の健康を育む、保てるまち (予防・広報等)	← 健康で妻と車で九州・四国一周旅行をしたい。
	8 定期的(毎週・毎月)に体を動かすことができ、若いうちから運動の習慣がつくようなまち	← 仕事しながらも体を動かすなど、将来に備えて健康的な生活
	9 福祉に力を入れていただき、市民が明るく楽しく生活できるまち	← 福祉活動を楽しんでいきたい。
	10 今の良いところ(奈良公園・シカとの共生・寺・神社・自然・人)を守り続けて、大阪、京都と違った発信・アピールをして、持ち味を生かしたまち	← 家族と笑顔で楽しく生活をしていきたい。 (離婚せず子どもからも好かれながら)

分類	10年後のまち	10年後のわたし
まちづくり	1 認知症を少しでも減らし、隣近所の顔が見えるまち	← 地域の中で、健康で頑張っていきたい
	2 交通機関が発達したまち	← いろんな所に行ってみいたい
	3 自然災害に強いまち	← 今後、財政のことを考え、自然災害に強いまちに住みたい
	4 障害者に優しい、自由に出かけられるまち	← 健康を維持しスポーツ（水泳）をしたい
	5 経済的に豊かな、子ども、老人に優しいまち	← 仕事をリタイアし、第2の人生を歩んでいたい
	6 交通環境が良く、出やすいだけでなく、来やすいまち	← 元気で日本だけではなく海外にもお洒探し旅をしたい。
	7 JR・近鉄の合流駅	← 家族みんなで楽しく充実した生活をしていきたい。

市役所正庁でのWSの様子



●9/28⑥興東公民館

分類	10年後のまち	10年後のわたし
ひとづくり	1 保育園・学校が近くにあり、働く所も近くにある。若い人が住み、子どもを育てられるまち	← NPO法人奈良市東部エゴマの郷を、次の世代に引き継いでいきたい。
	2 ボーダーレス（年齢・性別・地域・宗教・価値観 etc）	← ライダー
しごとづくり	1 さらに外国人観光客を迎え、交流する仕組み・場所があるまち	← 80歳になっても若いと言われたい。（脳の活性化を図る）
	2 アクセスの良いまち	← 日本と世界をつなぐことをしていきたい。
	3 地域産業（観梅）の長期化、茶が発展する豊かな地域で若者が戻るようなまち	← 地域産業（観梅・茶）を次世代に継承し、若者が定住する地域にしていきたい。
	4 イノシシ・鹿・アライグマの被害がないまち	← イノシシ・鹿の被害がない圃場で農業を元気でしていきたい
	5 ジビエの活用が進み、獣害の出ないまち	← イノシシ・シカ猟をもっと効率よくできるようになりたい
	6 小さくてもいいので、様々な人たちが楽に働け、自分にあつたお小遣いが稼げるところがいっぱいあるまち	← 健康で70歳代になっても働けていればと思う。自給自足の生活が目標
くらしづくり	1 地元が健康で元気なまち	← 健康で体を動かしている自分でありたい。
	2 自然の多いまち	← 健康でゴルフをしていきたい。
	3 山間地に訪問医療の施設を設置し、また、災害時にも山間地に支援の手が及ぶようなまち	← 健康でいて、宝くじに当選して、ふるさと基金を作り、村祭りや災害対策をしていきたい。
	4 少しでも人口の増加になるように、集いの場のあるまち	← 健康でありたい。そして当町の活性化に努めたい。
	5 子ども、お年寄り（親）が共存できる地域	← 今までの自分の人生を振り返り、ゆったりと過ごしたい。
	6 若い世代が増えて、子ども達の沢山いるまち	← 元気で今している仕事をしていたい
	7 若者が帰ってくるような、近所人間関係のあるまち	← 健康で農業をし、愛犬も元気で一緒に旅行等をしていきたい。

分類	10年後のまち	10年後のわたし
まちづくり	1 山間部のネット環境が整い、旧都祁村でも仕事がスムーズにできるまち	← 旧都祁村の活性化に関する時間を今の半分以上作る暮らしをしていきたい。
	2 自然環境の良い便利なまち	← 健康な身体で仕事をしていきたい。
	3 荒地の少ない緑豊かな水田と、秋には稲穂が見えるまち	← 地域、町内の複数の友人と共に、町内の農地を少しでも守って楽しく生活をしていきたい。
	4 サル、シカ等の対策で自家野菜がとれるまち	← 家のまわりの草刈りを続け、自家消費用の野菜をつくりたい。
	5 自然を生かした軽スポーツができる場所の整備や人々が集いお茶を飲んだり軽食を食べながら交流できる場所のあるまち	← 筋肉量を増やし、元気でウクレレやベトナム語の上達を目標に日々過ごしていきたい。
	6 こういった会議に参加される方が、老若男女（25%、25%、25%）の割合くらいで会議ができるまち	← 故郷に住み続け、故郷が好きでありたい。
	7 全年齢の住民が安心して生活出来る住みやすいまち	← 世の中の流れについていける自分であり、安心して生活出来ている自分でありたい。
	8 高齢者が気軽に通える、地域が運営する集いの場があり、出かけるための交通機関が充実しているまち	← 全ての役職を辞任して楽隠居をしていきたい。
	9 道路状況が良くなり交通便利な活動しやすい住みやすいまち	← 元気で活動的でありたい。
	10 病院や買物に行くのに困らない移動ストアカーやコンビニ、コミタク等が通る「田舎にやさしい」まち	← 元気で楽しく好きな事を続けられて、田原に住んでいきたい。
	11 コンパクト集落を形成し、生活、交通手段を確立できるまち	← 人口が減少しながらでも地域農業（農村文化）を続けていきたい。
	12 畑のまわりが耕作放棄地になっただけで、道が整備されている（自動運転の車社会）まち	← 元気に畑仕事をしていきたい。
	13 車の運転が出来なくなっても、交通機関が不自由なく利用でき、生活に支障がない、また、何とか田畑を現状維持できるようにまち	← 健康で日常生活が普通にでき、車の運転や田畑の管理ができています。
	14 第1次産業の振興と交通網（道路・鉄道等）の整備されたまち	← 今（現状）と変わることなく生活を行い、子・孫と一緒に暮らしたい。
	15 免許返納しても自由に移動できる交通手段が充実したまち	← 健康で旅行三昧していきたい。
	16 コンビニがあり、コミュニティバスの運行しているまち	← 心身ともに健康な人でありたい。

興東公民館におけるWSの様子



●10/2⑦職員WS

分類	10年後のまち	10年後のわたし
ひとづくり	1 結婚しあえ若者達がたくさんいる活気あるまち	← 子ども達が結婚し、幸せな生活をしてほしい。
	2 他の市町村より子育て施策・環境が充実したまち	← 家族（妻と子ども）と引き続き住んでほしい。
	3 子育て世代に優しい、公園、プール、歩道のあるまち	← 家族と遊べる父でありたい。
	4 先生も子どもも、やりたいことができ、楽しめる学校があるまち	← 若々しく動ける体で、子ども達（生徒）と一緒に動き回ってほしい。
	5 子育ての悩み、辛さを1人で抱えないで済むような、子育てのしやすく、かつ、犯罪も少なく、楽しみや発見が絶えないまち	← できるなら父親になってほしいし、妻とも仲良く過ごしてほしいし、友人も含め、思い出を増やし、形として残していきたい。
	6 働きながら子育てしやすいまち	← 子育てをしてほしい。
	7 子育てで支援が充実したまち	← 子どもが4人ほしい。
しごとづくり	8 外国人定住者の多いまち 英語教育が盛んなまち（英語ディベートの世界大会が開かれる）	← 英語関連業務（英語ディベート教育、外国人支援）をしてほしい。
	9 在宅ワークをはじめ、いつでもどこでも働ける環境のあるまち バカンスのような長期休暇が取れる。長期休暇で他のまちからたくさん人が来てもらえるまち	← ワークライフバランスを最大限尊重し、自分の趣味や家族で過ごす時間を多く確保できる環境に居たい。
	1 農業が楽しめるまち	← 家族（親や子ども達）で楽しみながら農業（コメ・ハタケ）をしてほしい。
	2 教育により金融リテラシーのあるまち	← 不労所得を得たい。
	3 長期休み（2～3週間）を取得するのが当たり前なまち	← ファーストクラスで海外旅行をしてほしい。
	4 子育てをしながら仕事を続けられる環境にあるまち	← 仕事とプライベート（家庭）を充実させたい。
	5 外国にルーツをもつ方たちに、やさしい（多文化共生に特化した課づくり・やさしい日本語・日本語学習支援etc）まち	← 外国人に関わる仕事をしてほしい。
6 無駄な時間やお金をなくせる（申請の手間や給付もれない）まち	← 現状の維持をしてほしい。 （家族、時間、お金、仕事全てに不満がないため）	
7 新規就農にやさしく「豊かさ」の多様性をもつまち	← 食の自給自足を実現し、「仕事」「趣味」を楽しむ豊かな生活をしてほしい。	
くらしづくり	1 人の集まる（定住し）何事にもチャレンジできるまち	← 住宅ローンを完済
	2 文化を楽しむまち	← 趣味を楽しんでほしい。
	3 子どもに優しく、なんでも機械がやってくれる全自動なまち	← 2人の子どものお母さんで、便利な家電に囲まれて、家事と仕事をバリバリこなしてほしい。
	4 夏祭りなど、地域の行事が存続していて、役所はワークライフバランスがとれていて、奈良マラソンの応援はもつとにぎやかなまち	← 地域の人ともっと交流して、仕事で後輩にきっちり指導できて、奈良マラソンを完走してほしい。
	5 子どもから高齢者まで、全ての世代の人が住みやすいまち	← 健康で家族皆が元気に楽しくしてほしい。
	6 ワクワクする自由な生き方を選択できる、ライフスタイルが多様なまち	← 家族それぞれの自己実現の応援できる家庭をつくりたい。

分類	10年後のまち	10年後のわたし
まちづくり	1 災害に強いまち	← マイホームを買いたい。
	2 各種手続きが全てインターネット上で完結するクラウドインフラの確立されたまち。一方で余暇施設として映写機の感動を繋げる映画館のあるまち	← 様々なことに精通したコンシェルジュとして仕事に取り組みと同時に、プライベートでは娘とデートをするなど、周囲が羨むほどのチョイ悪オヤジでありたい。
	3 みんなが引っ越してきたいと思えるスポーツ施設がたくさんあるまち	← 奈良市に引っ越してスポーツを始めていたい。
	4 室内のあそび場が利用しやすい場所にあつて、子どもと遊びやすく、健康診断や予防接種を気軽に、柔軟な日程で受診できるまち	← 仕事と子育ての両立をしていきたい。
	5 被災しても強大な消防力と消防技術で被災死者ゼロのまち	← 被災したときに当局の消防力では対応できない災害に対して、他の都道府県から応援に来てくれた消防大隊を円滑に活動できるような体制づくりと指揮できるような判断力と統率力を持っていたい。
	6 公共交通機関で移動しやすい、電車（地下鉄）やバスなどの交通網を発達させ、歩きやすい道路整備されたまち	← 娘と一緒にショッピングや観劇したい。
	7 テマパークのある財政の豊かな人口の多いまち	← 趣味を謳歌し、高級車に乗りつつ、仕事では役職者でありたい。
	8 ・職員が窓口にいなくても行政手続きができる（問い合わせ対応もチャットボット等に対応している等） ・各個人が家庭から市役所に向かなくてもいいようなツールを持っている。 ・コンビニ等で今出来るサービスを各ショッピングセンターで平日以外も出来る ・AIと共存できる	← ・RPAを導入して、仕事ができる仕組みを作り、自分の業務の効率化を進めたい ・市役所に向かなくても、行政手続きができるようになってほしい。 ・AIに負けない自分でいたい。
	9 リサイクルやもったいない運動を促進し、開発に傾倒しすぎないエコなまち	← 環境にやさしい生活をしてほしい。
	10 環境汚染（ゴミ）が少なく、人々・動物が安心して暮らせるまち	← 健康で自由でありたい。（公園で読書、ゴルフ、ロックフェス）
	11 それぞれの趣味が活かせる多様性に対応できる公園があるまち	← 公園でロックフェスをしてほしい。
	12 子どもが安心して遊べる、好きなことができる、人々・動物が快適に、環境汚染、ゴミの少ない場（公園）のあるまち	← 健康でありたい。
	13 夜道が明るく安全・安心なまち	← 健康でありたい。
	14 子ども達が自由にボール遊びが出来るスペースがいっぱいあり、イチローが大会を主催したくなるくらいスポーツの盛んなまち	← イチローの草野球チームでプレーしたい。
	15 ・ジョギングコースがあるまち ・自然が身近にあるまち ・デートスポットがあふれるまち	← ・健康でありたい ・注文住宅で理想の家を建てたい ・結婚をしてほしい
	16 社会人大学や大学院など、学びの場が豊富に選択できるまち	← 大学でもう一度学び直しをしてほしい。
	17 リニア、ホテル、大学、企業等の誘致に力を注ぎ、定住、移住、交流が活発なまち	← 世界中の外国人と交流してほしい。
	18 ・景観が良いまち（緑豊か、公園が多い、散歩コースがある、無電柱、歩道が広い、穴ぼこの無い道） ・空気がきれいなまち（完全分煙、電気自動車の普及） ・治安が良いまち	← 家族との時間を大切にしていきたい。
	19 安心して働けて、楽しみ、趣味を楽しめる魅力的なまち	← 健康で働きつつ、楽しく暮らしてほしい。
	20 まち歩きをしていて楽しいまち（歩道が整備されていて歩きやすい）	← 小学生のように何事にも興味を持てる人間でありたい。
	21 大人から子どもまで一緒に楽しめるようなイベントが多く、活気のあるまち（街を使って謎解き、宝さがし、非日常体験etc）	← 子どもと一緒に全力で遊べるようなアダルトチルドレンでありたい
	22 安全で暮らしやすい（交通事故や犯罪の防止などをしっかりと）、健康づくりの場があつて（散歩して楽しいコース、病気になる予防対策をしっかりと）人との違いを認めあえる（お年寄りや外国人、弱い人にも優しい）自分が弱い立場になっても幸せに暮らせる優しいまち	← 健康で明るく、もう少ししっかりしていて、特技を1つくらい持っている人でありたい
	23 安全安心で快適に暮らせるまち	← 奈良市のことを今以上に好きでありたい。
	24 夜も明るく、四六時中自由にどこでも本が読めて、誰もが読書の権利が自由に保障される（バリアフリー）まち	← 図書館長になり今そのまま子どもと本を読み、学び続けたい。

(2) 市役所カード

職員ワークショップで出た意見を、行財政（ひと・そしき）、行財政（もの・かね・しくみ）、市民参画・協働の区分で分類・整理した。

▼意見の分類方法



▼分類・整理の様子



上記の方法に沿って分類した結果（主な意見）

●10/2職員WS（主な意見）

分類	10年後の市役所
行財政 (ひと・そしき)	やることをどんどん増やすのではなく「やらないこと」を決定できる戦略的（手続き、決裁、慣習、民間に任せる、残業なくす）な役所
	部局を越えた多様な人事交流を図れる役所
	市全体の利益を公平・公正に考えられるような役所
行財政 (もの・かね・しくみ)	職員がビジョンを共有し、前例にとらわれず自由に意見やチャレンジができ、皆が仕事を楽しめるような役所
	窓口で市民の方が頻繁に来なくてもいいよう（AIをはじめとした業務の効率化・電子化・省略化）な役所
	・財政状況を改善する中で、市民へ還元できるよう、環境整備、費用負担（税金・利用料）の減・給料は最低キープ
市民参画 協働	決裁・手続きなど「やらないこと」を決定し、テクノロジー（AI・IoT）の活用で、人間でなくてはならない仕事を最小限にした（働く時間・場所を自由に！）役所
	積極的に住民自治や地域の協働参画を推進するよう（手続きの簡素化・担当課の設立etc）な役所
	活気のある市民のいこいの場的（楽しめる場所）な役所
	核家族化が進む中で、地域のコミュニティを広げ市民の孤立を解消できる役所

3. 意見の集約

分類を行った後、各班で分類ごとの特徴等を集約し、言葉にまとめた。各班の結果は下表の通りである。

(1) わたし・まちカード

	ひとづくり	しごとづくり	くらしづくり	まちづくり
1班 9/14①北部会館	未来への担い手をみんなで育てられるまち	働きやすく、チャレンジも受け入れられるまち	誰もが自分のまちをつくりあげるまち	誇りある豊かなくらしができるまち
2班 9/14②正庁	地域が子育てに密接にかかわるまち	最低賃金が日本一高いまち	健康で趣味・地域活動が可能なまち	ボーダレス・バリアフリーなまち
3班 9/21③都祁	子どもの選択肢が多い共に学ぶまち	地域の特産物を承継するまち	生まれてよし、住んでよし、帰ってきてよしのまち	都市部と山間部が連携するまち
4班 9/21④西部公民館	みんながつながり健やかな子どもが育つまち	誰もが好きな働き方を実現できるまち	楽しく、魅力があり共生できるまち	郷土愛を持ってわくわくできる町づくりができるまち
5班 9/28⑤正庁	地域ぐるみで子育てしやすい環境を生み出せるまち	地域特性をうまく活かした多様な仕事のあるまち	医者いらずで文化的に楽しみがあるまち	交通環境の整った子どもや老人や障がい者にやさしいまち
6班 9/28⑥興東公民館	互いのちがいを認め合えるまち	自然を生かす仕事を生み出し続けるまち	老若男女 ひとりぼっちがいないまち	年代を超えた人たちがお互いに支え合える住みやすいまち
7班 10/2⑦職員WS	子ども達の笑顔があふれるまち	充実した毎日がおくれるまち	人がつながり豊かな生活ができるまち	毎日がワクワクする「やりたい」が受け入れられる魅力的なまち

(2) 市役所カード

行財政 (ひと・そしき)	行財政 (もの、かね、しくみ)	市民参画、協働
・職員一人ひとりが働きやすく、能力を十分に発揮できる役所	<ul style="list-style-type: none"> ・財政状況をよくするとともに、新たな魅力と可能性を創造することで、市民へ還元する役所 ・脱アナログと最新技術を駆使し、ムダのないスマートな市民サービスを提供できる役所 	互いが繋がりを持てる多様なコミュニティを創造できる役所

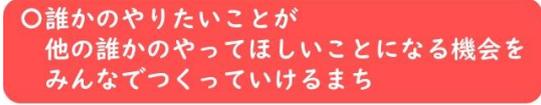
4. 編集作業

(1) わたし・まちカード

各班の集約結果を見ながら、分類ごとに思いを凝縮し、4つのまちづくりの方向性に集約した。また、4つのまちづくりの方向性を包含する大きな全体の目標として1つの都市の将来像をまとめあげた。編集にあたっては、参加した代表者が意見を交わしながら、全員が納得するまで話し合いを行った。



各意見交換の内容と思いを凝縮した言葉は下記の通りである。

意見交換の主な内容	思いを凝縮した言葉（まちづくりの方向性）
（ひとづくり：子育て、教育） <ul style="list-style-type: none"> ●子育てには誰もが関わる ●地域全体が密接に子育てに関係している ●将来の選択肢を多くつくる ●互いの違いや価値観を認め合うこと ●ルールから外れてもよい 	 <p>○誰もが子育てに関わり 多様な生き方を認めあうまち</p>
（しごとづくり：観光、産業、労働） <ul style="list-style-type: none"> ●チャレンジを支え受け入れる環境 ●好きな働き方ができる環境 ●最低賃金日本→ワークライフバランスからライフワークバランスへ ●地域の特性をうまく生かした、多様な自然を生かす仕事を生み出し続ける 	 <p>○地域の特性をいかした 様々な働き方にチャレンジできるまち</p>
（くらしづくり：いきがい、福祉・健康、地域活動） <ul style="list-style-type: none"> ●暮らしを楽しんだり、健康に暮らせる環境 ●自分一人ではなく、他者の存在 ●コミュニティづくりや居場所づくりは機会づくり ●自分たちでやりたいことができる状況を作り出す ●障がいのあるなしに関係なく自分らしく暮らせる 	 <p>○誰かのやりたいことが 他の誰かのやってほしいことになる機会を みんなでつくっていきけるまち</p>
（まちづくり：都市基盤、環境・衛生、安全・安心） <ul style="list-style-type: none"> ●誰もが置かれている状況に関係なく暮らしていける ●市民の声がインフラ作りに反映される ●命を守ること、生活を守ること ●色々な世代がまちにいる 	 <p>○命と生活を守る方法を 自分たちで生み出せるまち</p>

まちづくりの方向性を包含する大きな全体の目標（都市の将来像）

「わたし」からはじめるわたしたちのまち奈良

- 自分の人生を自分で作れるまち。まちについてもじぶんごと、じぶんから動かすような思い
- 笑って、楽しい、夢や希望にあふれていて、みんなが主役であってほしい、誰一人残さない
- 総合計画書を開いた市民が「あ、じぶんのことだ」と思えるような言葉

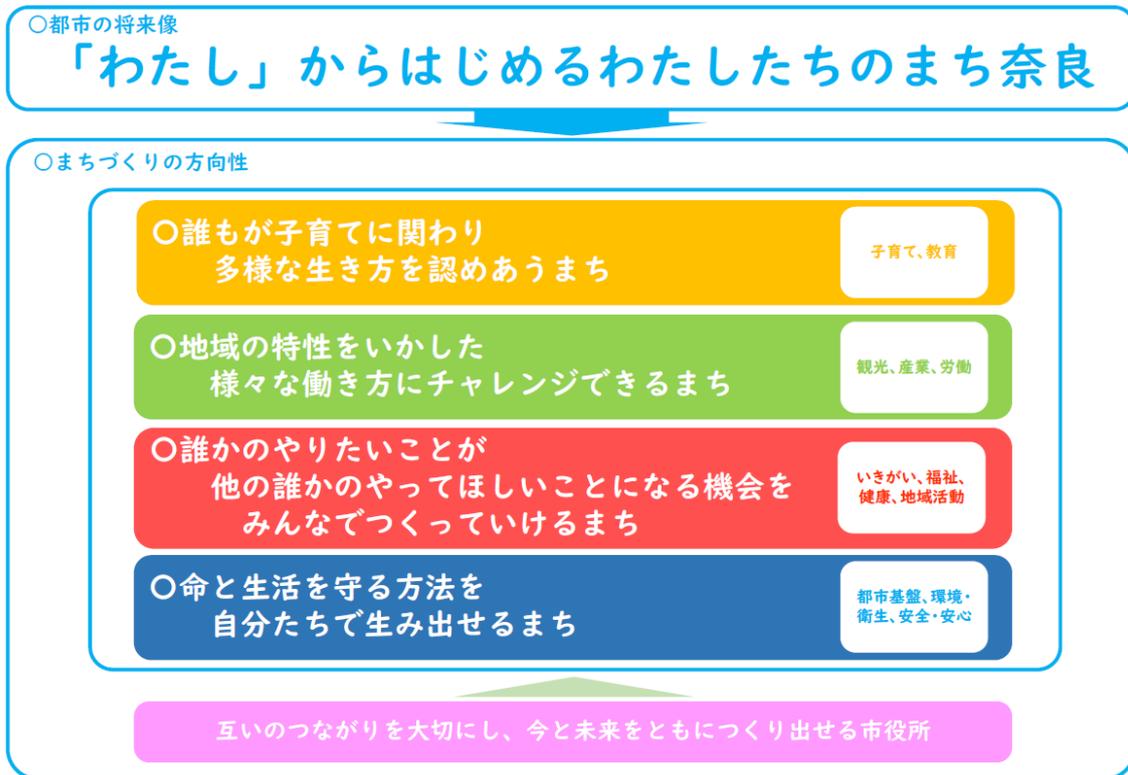
(2) 市役所カード

各カテゴリーの集約結果を見ながら意見を交わすとともに、市民ワークショップの思いを集約した4つのまちづくりの方向性などを支える行政の取組みという視点も重視して意見交換を行った。各意見交換の内容と、思いを凝縮した言葉は下記の通りである。

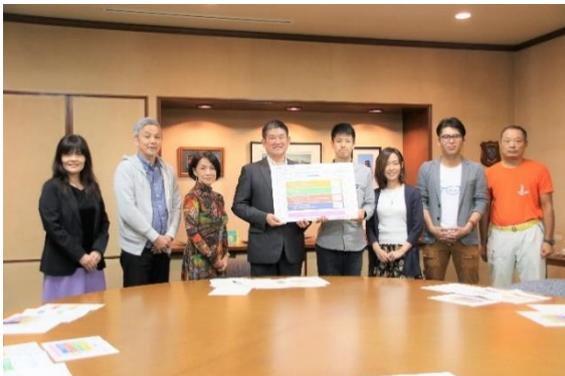
意見交換の内容	思いを凝縮した言葉（まちづくりの方向性）
<ul style="list-style-type: none">● 市役所はまちづくりの方向性を実現する土台となってその取組をきちんと支える役割。● 健全な行財政運営の実現● 時代に応じた新技術の取り入れ● 効率化された無駄のないサービス提供を進めていく必要がある。● 部署間連携をこれまで以上に強化● 時代に応じた働き方の実現● 職員自身が十分に能力を発揮できる環境づくりをさらに進めることも必要● まちづくりの方向性を実現する主体は行政だけでなく、市民、民間など多様な主体が関わって実現する● 協働の視点もかかせない。	<p data-bbox="815 719 1393 835">互いのつながりを大切にし、 今と未来をともにつくり出せる市役所</p>

5. 結果

200 を超える市民の思いをもとに、10 年後に目指す都市の将来像として『「わたし」からはじめるわたしたちのまち奈良』を、その具体的な 4 つのまちづくりの方向性として『誰もが子育てに関わり多様な生き方を認めあうまち』『地域の特性をいかした様々な働き方にチャレンジできるまち』『誰かのやりたいことが他の誰かのやってほしいことになる機会をみんなで作っていけるまち』『命と生活を守る方法を自分たちで生み出せるまち』を、また、それを支える 5 つ目の視点として『互いのつながりを大切にし、今と未来をともにつくり出せる市役所』を目標としてまとめあげた。



まとめあげた都市の将来像等の案については、10 月 24 日（木）に市民ワークショップの代表として編集会議メンバーのうち 7 名が市長を訪問し、内容を報告した。



IV. 出張インタビュー

1. 実施概要

市民が多く集まるイベント等の場所にブース出展し、市民から総合計画に関する意見を広く求める目的で、出張インタビューを実施した。

	1回目	2回目
実施期間	令和元年 10月 13日 (日)	令和元年 10月 26日 (土)
会場	スポーツ体験フェスティバル @奈良電力鴻ノ池パーク (中央体育館前)	奈良市食育フェスタ @ならファミリー (1階 らくだ広場内)
参加状況	229名	107名

【参加者の内訳】

●第1回目 10月13日(日)

居住地	
市内	224
市外	5
	229

性別	
男	84
女	145
	229

年代	
～10	57
20	12
30	49
40	80
50	15
60	10
70	4
80～	2
	229

●第2回目 10月26日(土)

居住地	
市内	91
市外	16
	107

性別	
男	29
女	78
	107

年代	
～10	7
20	13
30	29
40	18
50	10
60	14
70	9
80～	7
	107

【実施内容】

①アンケートボードの設置

奈良市の「良いところ」、「お困りごと」及び今後の奈良市が力をいれるべき施策について、パネルを設置し、通りがかる市民の方に簡単なインタビューを実施した。

②まちなか発想ゲーム「メイキット」の実施

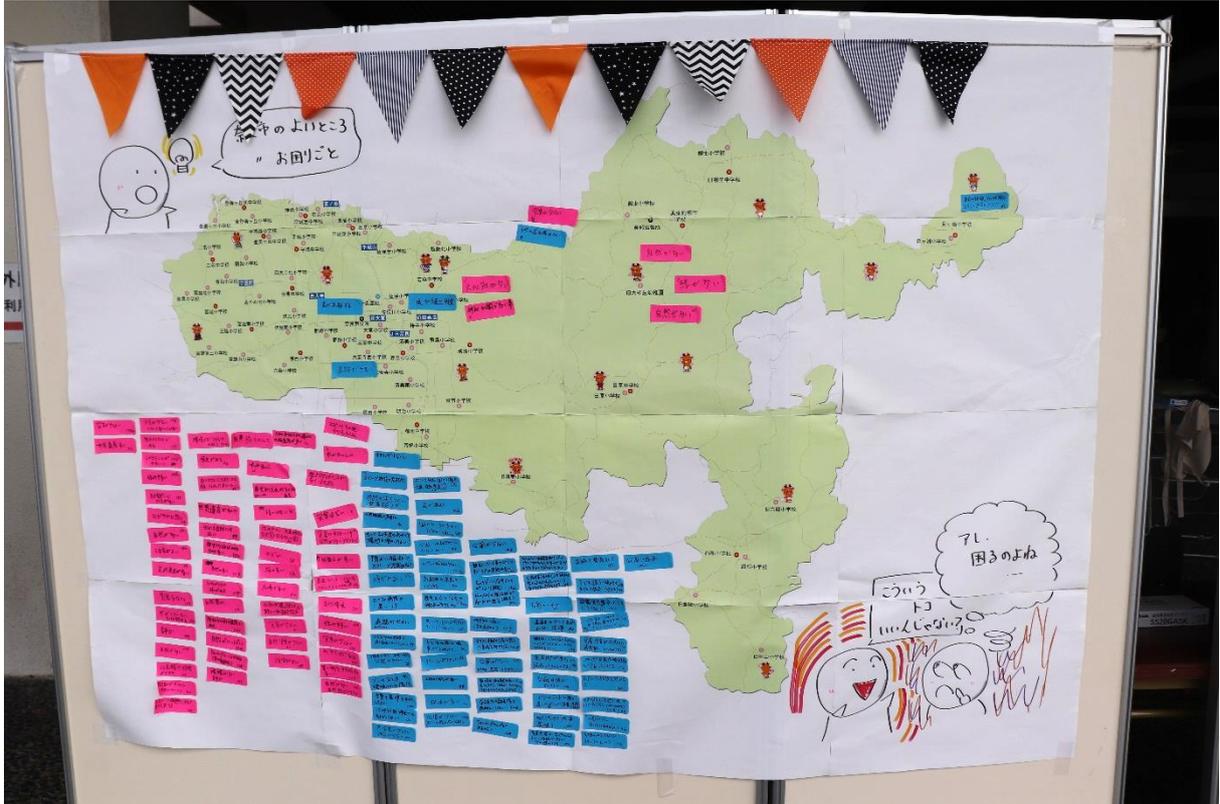
上記①と並行して、時間のある方には、一緒に遊び、楽しみながらまちの課題の解決アイデアを検討するカードゲームを実施した。

2. アンケートボードの結果

アンケートボードに記載された各回の主な意見（抜粋）は下記の通りである。

	第1回 10月13日	第2回 10月26日
奈良市の良いところ	<ul style="list-style-type: none"> ・まちにも自然にも近い (30代男性) ・自然が多い (40代女性) ・災害が少ない (60代男性) ・スポーツに力を入れている (30代男性) ・歴史がある (50代女性) ・ウォーキングコースがある (70代女性) ・外国人が多い (30代女性) ほか多数 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化が豊か (50代女性) ・治安が良い (70代女性) ・観光が充実している (60代女性) ・かわいいしかまろくん (20代女性) ・子育てしやすい (40代女性) ・近所に世界遺産がある (30代女性) ・自然が豊か (60代女性) ほか多数
奈良市のお困りごと	<ul style="list-style-type: none"> ・道路が狭い (10代女性) ・公園が少ない (40代女性) ・子どもと遊ぶところが少ない (30代男性) ・スポーツ施設が少ない (30代男性) ・大きな病院が遠い (30代女性) ・企業が少ない (40代男性) ・丁度良い食事処がない (30代女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・運転マナーが悪い (80代男性) ・子どもがたくましく育つ教育をしてほしい (80代女性) ・公共施設が古い (30代男性) ・子どものあそび場がない (40代女性) ・宿泊客が少ない (70代女性) ・ボールで遊べる公園がない (40代女性) ・スーパーが無くなった (30代男性)

第1回 10月13日の結果



第2回 10月26日の結果



今後奈良市が力を入れるべき施策についての投票（1人3票）の結果は下記の通りである。

分野	施策	10/13	10/26	合計
子育て・教育	1. 子ども・子育て支援	97	51	148
	2. 教育環境の充実	64	28	92
	3. 生涯学習の充実	7	7	14
文化・スポーツ	4. 文化・芸術の振興	21	14	35
	5. 歴史・文化遺産の保護・活用	19	17	36
	6. スポーツの振興	43	13	56
医療・福祉	7. 障がい者福祉の充実	41	3	44
	8. 高齢者福祉の充実	41	17	58
	9. 地域医療の充実	35	5	40
防災・防犯・生活環境	10. 防災・防犯の取組	23	21	44
	11. 交通安全の推進	16	6	22
	12. ごみの減量化等の環境政策	24	8	32
道路・公園等 まちの整備	13. 道路・歩道の整備や改修	64	32	96
	14. 公園・緑地の整備	51	24	75
	15. 公共交通の充実	12	13	25
経済・雇用	16. 観光産業の振興	32	23	55
	17. 農林・商工業の振興	8	9	17
	18. 労働環境の改善	15	6	21
行財政改革	19. 市民・事業者と協働のまちづくり	6	5	11
	20. ICTによる市民サービスの向上	7	1	8
	21. ムダのない行財政運営	28	15	43
その他	—	5	—	5

10月13日の結果



10月26日の結果



3. メイキットの結果

メイキットとは、「まちの資源」と「まちの魅力」を組み合わせる「まちの声（課題・お困りごと）」を解決するアイデアを考え、出来るだけたくさんアイデアを出した人が勝ちというカードゲームである（下図）。



まちの声（上図の赤いカード）と、まちの魅力のカード（上図の緑のカード）に、実際にアンケートボードに寄せられた市民の皆さんの声をリアルタイムで直接反映させたカードも追加し、手持ちのカードを組み合わせながら、まちのお困りごとの解決策のアイデアを発想する体験を提供した。



	まちの声 (課題・お困りごと)	組合せ		⇒	解決策	
		まちの資源	×		まちの魅力	⇒
13	<u>ボールを投げて遊べる公園がない</u> (40代女性)	クラウドファンディング 大学	×	—	⇒	市民でクラウドファンディングして場所を整備したり、大学のグラウンドをお願いして使わせてもらう。
14	<u>ボールを投げて遊べる公園がない</u> (40代女性)	大学 公園	×	<u>平城宮跡</u> (子どもが遊べる)	⇒	平城宮跡利用ルールを見直し、使えるようにする。公園は狭いので、大学のグラウンドも交渉する。
15	<u>宿泊客が少ない</u> (70代女性)	ご当地グルメ お祭り 銭湯・温泉	×	—	⇒	お祭りで夜に人を集めて、ご当地グルメを食べてもらう。温泉にも入ってもらえれば、泊まる。
16	<u>運転マナーが悪い</u> (80代男性)	大学生	×	<u>鹿に囲まれても助けてもらえ る・子育てし易い</u>	⇒	奈良の協力的な人たちや、積極的な大学生の力を借りて、危険なドライバーを再教育する。
17	<u>宿泊客が少ない</u> (70代女性)	自然(山) マルシェ	×	<u>文化が豊か</u>	⇒	山の景色など、朝の奈良の魅力伝えるイベントや朝でも楽しめる文化活動をする。
18	<u>スーパーが無くなった</u> (30代男性)	社会起業家 地場産業	×	<u>自然が豊か</u>	⇒	奈良は野菜の自給率が高いので、社会起業家に効率的な物流ネットワークを作ってもらおう。
19	<u>公共施設が古い</u> (30代男性)	募金	×	<u>かわいい しかまるくん</u>	⇒	かわいいしかまるくんグッズを作って募金のリターンにする。その金で施設をリニューアルする。
20	<u>子どもがたくましく育つ教育をしてほしい</u> (80代女性)	自転車	×	<u>近所に世界遺産がある</u>	⇒	小学校の授業で、自転車で世界遺産を巡る旅をしてもらう。

メイキット実施の様子



V. 活動団体インタビュー

1. 実施概要

第5次総合計画のまちづくりの方向性や各種施策の取組方針の策定に活用するため、各種分野において公益的な活動を行っている団体や事業者から、専門的見地に立った各分野の現状や将来の見通し、望ましいまちの将来像などについてインタビューを実施した。（1団体 120分程度）

(1) 実施時期及び対象団体

実施期間：令和元年9月2日（月）～24日（火）

	インタビュー対象団体	実施日	参加者数
1	(地域) 奈良市自治連合会	9月4日(水)	5名
2	(防災防犯) 奈良市自主防災防犯協議会	9月11日(水)	3名
3	(保健福祉) 奈良市地区社会福祉協議会会長会	9月2日(月)	6名
4	(保健福祉) 奈良市民生児童委員協議会連合会	9月3日(火)	5名
5	(子ども) 奈良市保育会、公立こども園会、奈良市私立幼稚園協会	9月6日(金)	3名
6	(環境) 奈良市地球温暖化対策地域協議会	9月24日(火)	2名
7	(観光) 公益社団法人 奈良市観光協会	9月12日(木)	2名
8	(産業) 奈良商工会議所青年部	9月5日(木)	10名
9	(産業) 公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構	9月13日(金)	1名
10	(教育) 地域教育協議会（総合コーディネーター）	9月18日(水)	3名
		合計	40名

(2) 主な質問項目

- ◆活動の概要
- ◆活動を進めるにあたっての課題や市の全般的な課題
- ◆今後10年間で求められる取組、10年後の奈良市の姿（理想の姿）

2. 結果の概要

(1) 奈良市自治連合会

概ね小学校区ごとの50の地区自治連合会からなり、地域コミュニティ活性化のため活動。

奈良市内に自治会は約1,100あり、住民相互の親睦、子ども会活動、防災・防犯活動、清掃活動等を実施。

① 活動の概要

- ・ 子どもと高齢者等の世代間交流、地区内の交流等を通じて地域が活性化するような取組を実施している。

[防災・防犯活動]

- ・ 防災士を中心にして年に1回大規模防災訓練を実施したり、防災訓練とお祭りを一つのイベントとした「防災フェスタ」を中学校で開催し、子どもから高齢者までが一堂に集まるような機会をつくっている。

[高齢者福祉]

- ・ 独居高齢者の見守りや高齢者のための健康体操や映画会、歌を歌ったりおしゃべりしたりという機会をつくっている。
- ・ 高齢者の買い物が困難になったため、事業者の協力を得て買い物バスを週1回2便運行している。連合会は、バスの広報やバス運行時の交通安全の見守り等をしている。

[子育て支援]

- ・ 0～2歳ぐらいの子どもと家族の交流会（民生児童委員が協力）、ひとり親家庭の子どもを対象とした学習支援（教員OB・教育大生が協力）
- ・ 子どもの農業体験用に農園をつくっている。

[清掃活動]

- ・ 地域内の川の清掃など定期的に取り組んでいる。まちがきれいであれば、人の心がすさみ犯罪も起こりやすくなると考え、清掃に取り組んでいる。

[親睦活動]

- ・ 夏祭りの実施。長年実施されていなかった夏祭りを復活させ、夏祭りがなかった子育て世代が、子どもを連れて同窓会的に集まるイベントになっている地区もある。

② 活動を進めるにあたっての課題

- ・ 担い手不足や、担い手が固定されてしまうことが悩みである。団塊の世代が退職して地域に帰っているが、自治会活動に入ってきてもらうのが難しい。
- ・ 外に出ない高齢者が増えることが懸念される。いかに外に出てきてもらうかも課題である。
- ・ 自治会のなかでは、高齢者対応は民生児童委員、女性は婦人会、子どもは子供会と、少なくとも3つぐらいは組織があり、自治会長を中心にして運営されてきた歴史がある。しかし、行政から、防災や子育てなど、縦割りの分野別に人を出すことを求められるようになり、中心的な担い手が自治会から小学校区や連合会単位の活動に引き抜かれてしまったため、自治会が弱

体化している。

③ 今後 10 年間で求められる取組

- ・ 地域コミュニティの基盤が脆弱になってきているが、奈良市はコミュニティ政策が弱い。地域をどうするかについて、みんなで考え、その基盤を協働でつくっていくことで、次の総合計画がうまく進むのではないかと。また、前述した自治会の弱体化に関しては、行政が、縦割りになった地域の組織を束ねるような連携や情報共有を促進しないと地域が活性化しない。
- ・ 今後は有償ボランティアの導入が必要ではないか。例えば、しみんだよりのポスティングは、月に 1 回友人と集まって昼食ができるぐらいの収入にはなる。ポイント制度はあるがやや中途半端で、少額でもお金がもらえるとモチベーションが上がりやすい。有償ボランティアの導入も検討しなければ、地縁組織が消滅してしまうのではないかと危惧している。
- ・ 体力のある高齢者には、現役時代に身に着けたスキルを生かして、担い手として活躍してもらえようシステムをつくることで、地域活動も随分変わるのではないかと。高齢でも、働く場があれば、自己有用感を持てる。人生 100 年時代を見据えた取組が必要であり、地域も行政と一緒に考える必要がある。
- ・ 男性が地域デビューするには地域との接点が少なすぎる。地域で活動する人には女性が多いため、男性が入りにくいということもある。現役時代に地域との交流がないことが大きな課題であるため、そのような機会を持てる仕組みづくりや、地域デビューのための講座を開くような努力が運営側にも必要である。
- ・ 市は、行政評価をそれぞれの課で実施しているが、協働活動の参加者による評価はない。協働を進めようとするれば協働相手の声を聞かなければならないが、それができていないことは行政側の大きな課題ではないか。

④ 10 年後の奈良市の姿

- ・ 女性が育休終了後に職場復帰しやすいなどの環境が整えられ、子育てしやすいまち
- ・ 地域の中での世代を超えたつながりが活発で、みんなが楽しく生きていけるまち
- ・ 教育費の負担が少なく、2 人でも 3 人でも子どもを育てていきやすいまち
- ・ 子育てが落ち着いた後に仕事復帰して働きやすいまち
- ・ 地域の目が行き届いていて、みんなの顔がみえるまち
- ・ 誰かが困ったときに手を差し伸べ合える、そんなつながりがある、安心して暮らせるまち
- ・ 外国人の人たちにとっても暮らしやすく、地域づくり、まちづくりに参画していける、そして学び合えるまち
- ・ 子どもに対して夢や希望を与えられるようなまち
- ・ 市民と行政が一体となって協働していけるまち
- ・ みんなが自分ごととしてまちのことを捉えて、地域が主体となって行政と協働する、みんなが住み続けたいと思うぬくもりのあるまち

(2) 奈良市自主防災防犯協議会

自主防災防犯組織相互の情報交換、連携を行うことで、奈良市の防災・防犯力が向上することを目的としている。自主防災防犯組織は、地区自治連合会と連携して小学校区単位で防災・防犯活動を実施。

① 活動の概要

[防災訓練]

- ・ 年に1回大規模な訓練を実施。「流水歩行訓練」や「濃煙体験」（テントの中に濃い煙を焚いてその中に入る）、ドクターヘリの招聘等他地域ではやっていないことを先駆けて実施している地区や、中学生が講師役として活躍している地区もある。

[防災教育]

- ・ 子どもを対象とした防災教育が重要であると考え、学習カリキュラムにも組み込んだうえで、毎年小学校5年生の児童を対象に防災教育を行っている地区がある。防災教育の教材は自主防災組織が独自に作成しており、「災害時にペットボトル1本の水で何ができるか」など、子どもが自ら考える形式にしている。
- ・ 住民に対して、防災マップ作成や防災関連ゲーム等を通じた意識啓発を実施している。

[避難所運営]

- ・ 避難所開設・運営マニュアルを作成し、初めての人でもマニュアルを見れば避難所を開設できるという体制を整えている。
- ・ 現場をコントロールする能力をつけるため、スタッフのみを対象とした避難所開設訓練を実施している地区や、大学生にも協力してもらいながら中学校で1泊する避難所訓練を始めた地区もある。

[人材育成等]

- ・ 防災士資格取得を支援しており、資格取得後には必ず自主防災組織の活動に参加するという条件付きで、講座受講のための交通費や受験料、登録料を自主防災組織が負担している地区がある。防災に対する意識が高ければ、活動にも積極的に参加してもらえるため、組織の維持のためにも資格取得者を増やすことは重要である。
- ・ 地元の建築業者や美容院等と災害時の協定を結んでいる地区もある。企業はあまり自主防の訓練に参加することはないが、何かあったときにできる範囲で協力してもらえるようにするなかで関心を持ってくれるようになった。

② 活動を進めるにあたっての課題

- ・ 後継者不足が課題である。担い手に若年層がいない。若年人口が減少していることも理由の一つだが、ベテランばかりでは参加しづらいという面もあると思われ、若い人の意見が反映されにくい。気軽に参加できるような環境づくりや、多様な意見を吸い上げる仕組みづくりが必要である。
- ・ また、若い人だけではなく、女性や子ども、ペットの災害時の対応についても、意見を収集する

必要があると考えている。これらは全国の被災地でも課題になっている。

- ・ 防災に関する意見収集や情報伝達の方法として、祭りやイベントなど人が集まる場での口コミが有効であると考えている。講演等の一方通行のコミュニケーションではなく、横のつながりを活用して、口コミで情報を伝えてもらうことが、防災では最も重要である。
- ・ 自主避難をしてきた人たち、他地区の人たちが避難してきた場合にも、自主防災組織で対応するのかなど、どの範囲まで自主防災組織が対応しなければならないかが明確ではないことが課題である。

③ 今後 10 年間で求められる取組

- ・ 現行総合計画策定時は、自主防災組織の結成が目的であったが、10 年を経て結成は進んでおり、現在は、「具体的な活動をどうするか」という次の段階にきている。次期計画では、市としても自主防災組織の重要性を認識していることを強調してもらえれば、自主防災組織が共助の担い手としてすべきことが明確になり、やりがいも生まれるのではないかと。
- ・ 全国的に、自主防災組織がなければ、防災に対応できない状況になっているが、奈良市の防災マニュアルには、自主防災組織が位置付けられていない。奈良市地域防災計画の中に自主防災組織の位置付けと役割の明確化が必要である。
- ・ 担い手としての高齢者の活用も、今後のポイントの 1 つである。高齢化率が上昇する中では、高齢者に、福祉サービスの受け手ではなく担い手になってもらう必要がある。元気な高齢者はたくさんいるので、その人たちに防災や福祉に対する理解を深めてもらうことが、まちの大きな力になる。そのためには普段からの声かけ等絆をつくっておくことが大切であり、そのことにより高齢者の活躍の場を作ることに繋がっていく。
- ・ 消防団は消防庁からの指示で動く組織だが、自主防災組織はあくまでも自主的に活動しており、指示命令系統がない。そのため、地域コミュニティの結束が弱い場合は、地域コミュニティが豊かになるような取組を進めることが求められる。
- ・ 奈良市は学校での防災教育が十分ではない。学校教育のカリキュラムに防災教育を組み込むことが重要であり、子どものうちから災害の大変さを伝え、自分の命は自分で守るということ、子供の時から教えていくことが今後の 10 年間で奈良市に求められる最大の取組ではないかと。

④ 10 年後の奈良市の姿

- ・ 若い人が気軽に入ってこられて、その意見が積極的に反映される防災・防犯のマニュアルがあるまち
- ・ 防災士が沢山いるまち
- ・ 日常的な地域のコミュニティの繋がりが豊かで安全安心なまち

(3) 奈良市地区社会福祉協議会会長会

地区社会福祉協議会は、地域での見守り活動や居場所づくりなど、ボランティアで活動している自主的な任意団体。概ね小学校区ごと（市内 46 地区）に設置され、地域ごとに活動に特色がある。

会長会は、地区社協相互の連携や市社協、行政との連携を深めるための組織。

① 活動の概要

- ・ 地区社協会長会は、各地区で自治連合会や民生児童委員をはじめとする様々な主体が催し物等の活動をしている中で、前会長から、地区の中の活動をまとめてはどうかという提案があり、発足した団体である。各地区における活動等を報告し合うことで、他地域の事例を共有し、各地区の実情に応じて、取り入れていけるものは取り入れていきたいと考えている。
- ・ 地区社協として力を入れている取組は介護予防であり、地域包括支援センターと相談しながら、少しでも要介護になる時期を遅らせるための取組を行っている。音楽や体操など具体的な内容も開催頻度も、地区によって様々である。地区単位の活動には他地区の住民も参加できる。近隣地区から参加する人も多い。
- ・ 多世代交流を促すことも積極的に行い、参加者に楽しいと感じてもらい他の人にも声をかけてもらう。場を広げることで閉じこもりをなくし、見守り活動にもつながっていく。それが活動のポイントである。

[音楽活動]

- ・ 定期的な歌声サロン等で介護予防をテーマにした歌を歌う。
- ・ ハンドベルやトーンチャイムなどいろいろな楽器を演奏する楽器サロンを実施している地区や、音楽療法（ミュージックケア）を行っている地区もある。楽器サロンは、楽譜を見て考えて手足を動かすことが、脳の活性化につながっているようで、物忘れがなくなった、朝起きるのが楽になったなど、好評である。

[体操教室]

- ・ 介護予防ということで、各地区で健康体操を実施。

[喫茶サロン]

- ・ 喫茶サロンや茶話会を実施。例えば、健康体操や出し物の後、みんなでわいわい話す場を設け、こども園にも参加してもらう場合も。他の活動に参加している女性が、夫を連れてくることもあり、そこでまたつながりができることで交流も深まる。

[地区により特色のある活動]

- ・ メッセージカードとフラダンスのレイ、写真をプレゼントする誕生日会。
- ・ 3人1組で「しゃべらなければならない」「相手を焦らせてはいけない」「自分が焦ってもいけない」という3原則があるコミュニケーション麻雀。
- ・ 介護福祉士や看護師等の専門職による、健康に関する講演や相談。
- ・ グラウンドゴルフや絵手紙など同好会活動が活発な地区もある。

② 活動を進めるにあたっての課題

- ・ PR 活動は重要である。奈良市全体として、地区社協の活動を知らない人も多い。先日しみんだよりで活動を紹介してもらったら絶大な効果があった。社協だよりの全戸配布も効果が期待できる。すでに参加している人の口コミも含め、広報活動を通して活動内容を一般市民の方

に知ってもらいたい。

- ・ 基本的に、どの活動も男性の参加者が少ないので、また来たいと思ってもらえるよう、意識的に声をかけている。若い人よりは、80代、90代の男性が比較的多いが、参加して自分が元気になっているという実感を持ってもらうことが非常に大事だと思っている。
- ・ 活動してくれる人材を確保することも課題である。地域でのつながり、活動の継続性を考えると現役世代にも参画してほしい。

③ 今後 10 年間で求められる取組

- ・ 今後の 10 年間で最も求められるものは間違いなく福祉だが、今のままでは、この先の奈良市の福祉の体制は維持できなくなることが予想される。そのため、第 4 次総合計画でできたこととできなかったことを点検し、反省点を踏まえて、今後 10 年の計画を立てることが求められる。今の 50 代は元気なので、まだ危機感を持っていないが、自分たちが高齢者になった時にも高齢化社会をうまくコントロールできるよう、きっちりとした、かつ実現可能な計画を立てる必要がある。
- ・ 市はもっと福祉に予算を配分してほしい。市社協には市からの活動助成金が出ているが、地区社協の活動も経費がかかる。また、仕組みをつくるノウハウを提供してくれる人材も必要である。現状は完全ボランティアで活動しているが、若い世代に無償でボランティアをしてほしいと言っても難しい。少しでもよいので、有償であれば参加しやすくなるのではないかな。
- ・ 見守りや声掛けなどを住民に浸透させ、住民誰もが人をやさしく見守りあえるのが、本当に人にやさしいまちであろう。「ちよっとの思いやり」が非常に大事である。普段は何も言わないが、みんなが状況をわかっていて、いざという時に動ける、昔の長屋のようなネットワークをつくる必要があるのではないかな。
- ・ 高齢者だけではなく、子どもの見守り、ひいては子どもを持つ若い保護者の見守りも必要である。地域でつながりがなく、孤立する中で虐待につながるケースも多い。外に出てきてくれる人は心配ないが、出てこない人のケアが一番懸念している。高齢者、子ども、障がい者の福祉に横串を差し、総合的に対応する必要があり、そのために、各団体や自治会長との連携が必要で、積極的に会議を持つことも必要である。
- ・ サロンなどの企画が高齢者向けになると、「私はもう少し先でいい」と思われてしまう。若い人が参加したいと思うようなプログラムを、若い人自身に企画してもらえるよう、担い手を確保する仕組みも必要である。現在は、放課後子ども教室に来る 30 代、40 代の保護者に声をかけるなど、一本釣りのような感じで勧誘している。
- ・ 市役所を定年退職した人にも地域活動に加わってほしい。

④ 10 年後の奈良市の姿

- ・ 見て見ぬふりをせず、声をかけあえるまち
- ・ 地域で高齢者を見守り合えるまち
- ・ ネットワークで見守り合えるまち
- ・ 昔の長屋のように余計なことは言わない、いい文化のあるまち

- ・ 地域で子どもを育て、それにより関わっている人も元気になるまち
- ・ 障がい者・高齢者・児童福祉などを総合的に取り組めるまち

(4) 奈良市民生児童委員協議会連合会

担当地域の住民の相談・支援を実施。民生委員と児童委員は同時に委嘱される。行政や社協等と連携相談しながら、自発的に奉仕の精神をもって、地域を基盤として活動する。

① 活動の概要

- ・ 活動の対象は、主に高齢者と子どもである。また、障がい者への支援も行っている。

[高齢者福祉]

- ・ 高齢者の関連で最も重要な活動は、一人暮らしの方の見守りである。民生委員には守秘義務があるため奈良市から名簿の提供を受け、頻度は地区によってそれぞれだが定期的に訪問している。夏は熱中症対策のために声かけをして回り、気象警報が出たら電話を入れて安否確認をする。また、地域包括支援センターと密接に関わるなど、関係機関とは孤独死等の問題が起こった時の対応や情報提供で連携している。
- ・ 高齢者が地域で孤立せず、みんなで長生きしようということを目的に、高齢者サロンを開いている。幼稚園の子どもと遊ぶ機会や夏休みに中学生と放課後児童クラブの子どもが参加するイベントを実施するなど、多世代交流に取り組んでいる地区がある。
- ・ 敬老会等の催しに参加したいが交通手段がないという声があり、地元の事業所が車を出してくれるところまで準備ができた地区がある。
- ・ 地域包括支援センターと連携して、認知症の徘徊見守り訓練を実施する予定の地域や、ゴミ出しが困難な高齢者のために、民生委員が毎回訪問して収集場所まで運んでいる地域もある。
- ・ 買い物難民の問題も出てきており、対応を検討している地区がある。

[子育て支援]

- ・ 子どもに関しては、子育てサロンなどで、子どもは遊び、親は親同士で情報交換をしている。若い親の中には、悩んでもどこに相談したらいいかわからない人が多いため、交流の機会を設けている。市の子育てスポット事業を民生委員が受託している地区もある。
- ・ こども園と小中学校の園長・校長や、生徒指導の先生と、年に数回話をする機会を設けている。また、困難を抱えた家庭と話ができる状態なら、民生委員が訪問し、守秘義務を順守しつつ学校と情報を共有している。
- ・ 子どもが生まれた時に、民生委員と地区社協でお祝いと検診や子育て関連行事のお知らせを持って訪問している地区もある。

[地区により特色のある活動]

- ・ 地域内にある病院、介護施設、商業施設をまちづくりに取り込んで、高齢者が住みよいまちにしていこうという取組を進めている。社協と病院の医師や薬剤師、リハビリ担当者、開業医、自治連合会長と民生委員の会長が入り会議をしている。これを地域包括ケアシステムの中に取り込んでいきたい。

- ・ 3か月に1回、地域にある福祉の事業所と地域包括センター、奈良市社協、そして民生委員全員で、情報交換会を行っている。その中で、事業所や喫茶店まで地域の中での連携を広げて、まちづくりができないかという話が出ている。
- ・ 新成人向けに「地域成人式」を実施している。成人式に参加した若い人が夏祭りを手伝いに来てくれるなど、効果が出てきている。若い人にもできるだけ地元の行事には帰ってきてもらい、地域に入ってもらいたい。

② 活動を進めるにあたっての課題

- ・ 今課題になっているのは、認知症や障がい者の方をどのように把握するかである。障がい者に関してはデータの一部を提供されているが、認知症の方に関してはデータが全くない。
- ・ また、最も恐れているのは孤独死だが、毎日訪問できるほどの人手がない。そのような中で、近所の人が「いつもと違う」ことに気づいて連絡をくれたおかげで発見するケースもあり、親しい付き合いではなくても、ご近所との関係は非常に大事であると考えている。
- ・ 高齢者も子育て中の親も同じで、集まりに来てくれる人より来られない人のほうが問題で、どう来られない人を見つけてどう来てもらうかが、一番の悩みの種である。特に高齢者は、1人で参加することや、場所が少し遠いなど、いろいろな不安で参加を躊躇することがある。
- ・ 伏見公民館など、活動している施設がバリアフリー対応となっておらず、車いすの人が参加できないなど、ハード面での課題がある。
- ・ 三条団地は5階建てだが、エレベーターがなく、分譲なので、上階の人が1階に移りたくても移れない。そうすると上階から動けなくなり、外に出なくなってしまう。10年後のことを考えると大きな課題である。

③ 今後10年間で求められる取組

- ・ 古くからの住民と新しく入ってきた住民のつながりをどう広げるか。賛否両論あると思うが、行政からの働きかけも含めて、半ば強制的にでも自治会組織をつくってもらうことをせざるを得ないのではないかと。そうすれば、自ずと情報交換もできるし、地域間の交流も進む。
- ・ 8050問題で、特に障がいを持つお子さんの親御さんが亡くなったらどう対応するか等について、行政や病院も含めて考えていくことが必要である。
- ・ 隣の地域の民生委員から徘徊等の連絡をもらうこともあり、民生委員も自分の地域で完結するのではなく、よその地域とも情報交換をするなど、相互に関わることの必要性を感じている。
- ・ 地区の中に高齢者福祉の事業所が8つあり、社協の集まりにも来てくれている（社協の半分以上は民生委員を兼ねている）。相手は企業なので制約もあるが、積極的に動いてくれるので、事業者との関係も育てていきたい。
- ・ 住民の安全を守るという視点では防災の取組は必須で、民生委員だけでは対応できない。自治会の中で各町に防災委員を置くことにし、災害に強い安心なまちをめざしている。
- ・ イノシシやシカの獣害があるため、10年後にはそれがないまちをつくりたい。
- ・ 「月ヶ瀬みらいの会」は、小学校ぐらいまでの子どもがいる世代がチームをつくり、バーベキューなど

のイベントで、村を楽しく盛り上げてくれている。空き家に住んでくれる人を連れてきてくれたこともある。若い世代が活躍できることが望ましい。

④ 10年後の奈良市の姿

- ・ 高齢者に配慮した建物のあるまち
- ・ 近所づきあいが活発なまち
- ・ 医療機関がまちと連携して安心を提供してくれるまち
- ・ どこにどんな人がいるのかわかるようなまち
- ・ 新しいコミュニティと既存のコミュニティがスムーズにつながりあえるまち
- ・ 様々な境遇の人がコミュニティとスムーズにつながれるまち
- ・ 近隣の地域同士が関わって情報を共有し合えるまち
- ・ 人に言いづらい困りごとにも寄り添えるまち
- ・ 高齢者と子どもたちが関わり合いやすい場所や機会があるまち
- ・ 学生と地域がともに地域性を考えて育てていけるまち
- ・ 見守り支援員が充実し、定着でき安心して暮らせるまち
- ・ 防災委員が各町に必ずいて災害に強いまち
- ・ 獣害問題がないまち
- ・ 若い人が中心になって空き家問題などの地域の課題を解決することで活躍できるまち

(5) 奈良市保育会、公立こども園会、奈良市私立幼稚園協会

奈良市内に立地するこども園や保育園、幼稚園で組織する団体として奈良市私立幼稚園協会、公立こども園会、奈良市保育会があり、それぞれ研修や交流活動等を実施。

① 活動の概要

[奈良市私立幼稚園協会]

- ・ 奈良市内の 15 園で構成する団体であり、上部団体には奈良県私立幼稚園連合会、全日本私立幼稚園連合会がある。活動には目的は 3 つあり、1. 教員の研修・研究活動。2. 要望活動や広報などの振興活動。3. 各園の情報交換や親睦・交流活動。
- ・ 幼児教育の質を高める要因は大きく 3 つある。1 つは施設の環境で、園庭の広さなどのハード面と、先生 1 人あたりの子どもの数などのソフト面がある。もう 1 つは保育内容の質である。最近では、我慢する力や友達と協力する力、トラブルを乗り切る力、工夫する力などの「非認知能力」を育むことの重要性が言われており、園長が中心になって、カリキュラムのマネジメントを行っている。最後は、教育者や保育者の質である。経験や研修を積んだ先生に長く勤めてもらうことが非常に大切である。
- ・ 特別支援教育に最も力を入れている。最近、支援の必要性を明確に把握しにくい、いわゆるグレーゾーンの子どもがどの園でも増えている。現場の先生もどのように接してよいのか悩んでいる

状況があるため、年に2回程度研修を行い、該当する子どもにどのような課題を与えるかなどの研修会を開いている。

- ・ 私立幼稚園振興に関しては、県の連合会でつくっているチラシの配布のほか、年に1回加盟園が作品を持ち寄る作品展を行っている。また、親睦・交流では、園長会で様々な課題について意見交換をしている。

[公立こども園会]

- ・ 奈良市立幼稚園・保育園・こども園 44 園で構成する会である。
- ・ 対象が0～5歳と幅広く、人格形成の基礎になる大切な時期であることから、奈良市で作成するカリキュラムであるバンビープランに基づき、そこに各園独自の狙いも盛り込んでいる。
- ・ こども園会では、質の高い保育をめざして、部会単位での活動を行っている。「カリキュラム部会」では、公開保育として、様々な園の取組を見学するとともに、午後はカンファレンスや有識者を招いた勉強会などを行っている。異なる園の職員同士が話をする機会が増えて、自園でのよりよい取組につながることを期待している。
- ・ 「事例部会」では、四半期を単位に、子どもの記録をとることを通して、園の活動が教育の狙いに合致した取組か、実施時期は適切か、その時の気持ちはどうかなど、統一フォーマットによる取組の記録を行い、事例集的に共有している。みんな忙しいが、1人につき1期1回は書くことにしている。
- ・ 「研修部会」では、運動関連やミュージックケアなど、すぐに保育に活用できるものを研修している。年に1回アンケートを実施し、希望を聞いている。

[奈良市保育会]

- ・ 公立・私立合わせて約40の園が集まる会であり、半分が私立保育園、4分の1が私立の認定こども園、4分の1が公立保育園である。公立と私立が一緒になっている組織は、全国的にも珍しい。
- ・ 活動のメインは研修であり、最近では、6月に南海トラフの研修を実施した。行政から講師に来てもらったが、その中で、日曜や休日に災害が発生した場合、義務ではないが、各園が在園児の安全確保を行うことが基本であることなど、これまで認識していなかった行政との役割分担が確認できたほか、災害優先電話回線の存在を知るなど、非常に有益であった。次回9月の研修では、6月の研修の内容を各園に持ち帰った後の対応の振り返りや課題について、参加者で話し合うことにしている。また、現場の保育士や職員を集めた勉強会も実施している。
- ・ 保育園や幼稚園に入る前の子どもを持つ保護者への支援もしている。子育てサークル向けに園庭を開放しているが、引っ越してきた人が、掲示板やホームページで見たと遊びにくることがあるため、保育所に入るための条件や、地域の子育て支援施設、子育て世代の保護者との交流ができる場所の情報を提供するなど、地域のコンシェルジュ的な役割も果たしている。
- ・ 人材の確保にあたっては、奈良市保育会として、就職フェアに参加している。

② 活動を進めるにあたっての課題

[奈良市私立幼稚園協会]

- ・今はどの園でも、幼児教育・保育無償化に対する不安が大きい。事務手続の大幅変更に伴い、事務量も確実に増えると言われているので、全日本の連合会には、事務費の捻出を要望している。
- ・幼稚園には、子育てに躓いた時に、相談にのって安心していただいたり、具体的なアドバイスをしたりできるような、気軽な幼児教育センター的な役割も求められている。ご家庭への教育啓発は非常に難しく、課題が多いと感じている。
- ・人材不足も課題である。先生も日常業務のほかに行事の準備等で忙しいため、年間労働時間制度を導入して、繁閑の調整をしている園もある。また、欠席連絡や事務連絡等の保護者との連絡は、ICT の活用で省力化しているところもある。一方で、保育の内容とともに子どもの育ちを記録し可視化して、保護者とも共有できる「ポートフォリオ」や「ドキュメンテーション」の作成については、必要性は感じているが、これからの課題となっている園が多い。

[奈良市保育会]

- ・保育に求められる要素は時代とともに変わっており、昨今保育においても重視されている非認知能力や主体性の育成以外にも、子どもの権利条約上の権利を守る保育の展開のためには、研修等を通じた保育士の人材育成が非常に重要になっている。
- ・また、人材育成と並行して、働く環境を整えることも重要である。年休の取得促進や、子どものいる保育士への配慮以外に、「ノンコンタクトタイム」として、子どもと接する時間を一旦中断し、書類整理等、保育以外の仕事に集中できる時間や相談の時間を確保するなど、仕事を時間外に出さない工夫が必要である。それによって、いざという時に踏ん張る気持ちがつくられると考えている。関連して、園長の意識改革も急務であり、年休の取得による心身の休息が保育の質を上げることを理解してもらうよう努めている。
- ・奈良市は、大阪・京都に比べて保育士への補助が少なく、電車 1 本で短時間で通勤できる大阪・京都に流れてしまうため、保育士の確保が非常に難しい。保育士になって最初から一人暮らしをする人は少なく実家から通える園を探すため、電車で 20~30 分で通勤できるなら、より条件のよい就職先に行ってしまう。

③ 今後 10 年間で求められる取組

- ・奈良市は過去に 1 小学校区 1 幼稚園という施策を進め、最近までかなり小規模な施設もあったが、ある程度スリム化する必要は生じるであろう。もちろん、過疎地域など、公立でしか対応できないところはあるが、民営化や学校法人化も選択肢として考えられるのではないかと。
- ・それぞれの施設に設立の背景やカラーがあるが、そのような多様性を残しておかないと、保護者にも選べがなくなり、それこそ画一的な子どもが育ってしまう。いろんな考え方の施設が奈良市にたくさんできて、それを保護者が選択できるような環境を整えることが必要である。
- ・保育人材の確保は、奈良市の大きな課題である。公立保育園では、人手不足により定員まで子どもを受け入れることができないという問題が起こっている。一方で、私立は定員割れを起こしている園はごく一部なので、民間に委ねていくという考え方もあるのではないかと。
- ・幼稚園教諭の処遇は、小学校教諭に比べて非常に低く、世界的に見てもこれだけ差がある国は少ない。働く環境の改善が資質の向上につながり、ひいては教育・保育の質の向上にもつな

がる。

- ・ 働く環境を整えるという点では保護者側も同じで、企業にその努力が求められる。子どもに熱が出たら早く帰るよう声をかける、3年生ぐらいまでは残業を免除する、できるだけ希望どおりに年休が取れるようにするなど、企業が子育てを支えると、まちも変わっていくのではないか。企業向けの子育て支援のためのコンシェルジュ的な役割も必要ではないか。
- ・ 幼稚園は、地域との関わりが比較的強い。地域の人が先生になって様々なことを教えに来てくれることで、子どもの知識や経験も増え、また地域の人と顔見知りにもなれる。お互いに声をかけあうようなまちが奈良市にできると、安心して生活できるのではないか。
- ・ 少子化と言われているが、幼稚園や保育園では一人っ子は非常に少ない。園で保護者同士が仲良くなり、困った時に助けあえるコミュニティができあがると、次の子どもを産んでいるようなイメージがある。また、通園の有無にかかわらず、子育ての悩みを抱えている人や、DVを受けている人などが、いつでも駆け込める場であることを知らせていく必要がある。
- ・ 実際に働いている家庭のニーズと行政が考える支援にずれがあるように感じる。ニーズの的確な把握が必要だが、市が実施しているアンケートは分量が多すぎる。通勤時間にスマホで回答できるような内容にしてはどうか。

④ 10年後の奈良市の姿

- ・ 自分のスタイルに合った教育・保育の方針を選べるような、多様な園があるまち
- ・ 親や園だけではなく、地域ぐるみで子育てができるまち
- ・ 子どもがたくさん集まるまち

(6) 奈良市地球温暖化対策地域協議会

住民、市民団体、事業者、行政等の連携・協働の場。持続可能な社会を目指して地球温暖化対策等の活動を推進する。

① 活動の概要

- ・ 奈良市地球温暖化対策協議会（NEW）は、地球温暖化対策推進法（温対法）で定められた法定協議会で、奈良市内で環境関連の活動を行う団体が集まっている。メンバーは、NPO 法人や各種団体、企業、行政である。環境に関心があり、各々のフィールドで活動していた人たちが集まっている。
- ・ 現在は、活動の内容を、大きく「プロジェクト」「プロモート」「コンソーシアム」の3つに分けている。
- ・ 「プロジェクト」では、主に啓発イベント、エコセミナーの企画、学校等での出前講座等を実施している。エコセミナーは、年2回開催する「エコエコサロン」のほか、環境講座として講演会を実施している。住宅メーカーとの連携では、住宅の断熱や遮熱についての展示とセミナーを開催した。
- ・ 出前授業は、NEW に参画している NPO から講座のメニューを提案してもらい、申込内容に応じて、小学校やバンビーホーム、幼稚園、保育園に出向いている。最近は放課後子ども教室か

らも依頼がある。

- ・ NEWとは別の取組だが、NEW加盟するNPOが市内の小学校3年生全クラスを対象にした環境学習を、正式な授業として実施している（NEWに加盟していない団体も授業を行っている）。
- ・ 「プロモート」では、環境問題を考えてもらえるような内容の落語会や薬師寺での講演を実施し、多くの人に関心を持ってもらえるようにしている。
- ・ 「コンソーシアム」では、奈良県立大学が実施するフィールドワークのパートナーとして、3年前に大学とNEWが連携協定を締結した。広報誌の取材やイベントでの活動等が授業の単位にもなるが、単位とは関係なく、自発的に参加している学生もいる。レンタル自転車で奈良市の歴史文化を見てまわるためのマップ作成にあたっては、学生自らが、レンタル自転車の使い勝手も含めた現地調査を実施しており、「ユーマップ」という電子媒体で公開している。

② 活動を進めるにあたっての課題

- ・ 協議会の存続にあたっての課題は、担い手の高齢化と組織の硬直化で、NEWの構成団体でも、担い手の平均年齢はおそらく70歳ぐらいになっている。退職年齢が実質的に後ろ倒しになり、退職した時には既に高齢で社会活動をする気力もないという人もいる。また最近では、環境に限らず、食品ロスや福祉、スポーツなど、様々な分野の社会活動が盛んになっているので、そちらに人が流れるという事情もある。
- ・ イベントやセミナーの参加者がほとんど顔見知りで、若い人の参加が少ないことが、NPOが直面している最大の課題である。人材不足で活動を引き継ぐことができない。
- ・ 環境保全の大切さを知り、自発的に取り組むためには、環境教育による種まきが必要である。ドイツでは家庭で親から子に種まきがされていて、大人になっても環境を優先する考え方が身につく。学校教育やセミナーだけで身につけることは難しいため、家庭での環境教育ができるような環境整備が必要である。

③ 今後10年間で求められる取組

- ・ 日本は、食糧を自国で確保できるよう、若い人がもっと農業に従事し、食料自給率を上げなければならない。エネルギーも、石油の輸入に頼るのではなく、自然エネルギーで賄える範囲で、最低限の電力を太陽光発電や地熱発電で賄えるような基盤をつくらなければならない。
- ・ 再生可能エネルギーの普及促進にあたって、行政に求められる役割は、代替エネルギーの賦存量のデータを提示することである。それをもとに、事業者や個人が自ら設置・稼働できるものを判断する。奈良県では、民間が事業の実現可能性を事前に調査するフィージビリティスタディの際に費用の半分を補助している。さらにその半分以上を奈良市が補助することも考えられるのではないかと。
- ・ 奈良公園などの観光エリアでは、ごみ箱が設置されていないため、そこでのごみをどうするか。人の目の届くところにごみ箱を設置して、分別のしかたをきちんと指導しながら回収することが重要で、それを「奈良公園方式」として確立するのが奈良市の役目であると考えている。
- ・ 総合計画では、温暖化対策だけでなく、個々の主要施策の中で気候変動適応策に言及し

てほしい。今後は、パリ協定で目標に掲げた削減比率を上回る削減目標を要求されると思われる、今よりもっと進んだ取組が必要になるため、奈良市でも先行して対策を検討する必要がある。

- ・ 災害時などに助け合うには、日頃から周囲と親しくしておくことが大事であり、その中でこそ、課題を共有し、未来のまちをイメージすることができる。日本人は外で集まって何かすることが苦手で、集まる場所もないが、たくさんある駐車場の一つに木を植えて、椅子をたくさん置いて、利用料として 100 円を払って、みんなが集まっておしゃべりする場所として利用する。自転車道路を整備すれば、誰もがある程度のところまでは自転車で行けるようになる。緑があり、子どもが遊び、高齢者が集まれる場所があればよいと思う。緑の手入れや管理は大変だが、市に任せきりにするのではなく、市民も協力しなければならない。

④ 10年後の奈良市の姿

- ・ 食料もエネルギーも、自分の分は自分でつくれるまち
- ・ 子どもが遊べてお年寄りが集まれる緑豊かな場所のあるまち
- ・ 気候変動に対応できるまち

(7) 公益社団法人 奈良市観光協会

奈良市及び周辺地域における観光事業の健全な振興に関する事業を行い、地域経済の発展と文化の興隆に資し、併せて文化の交流、親善の増進に寄与することを目的としている。

① 活動の概要

- ・ 市から受託している観光案内所の運営、観光情報誌「なら菜」（5万部を年1回）や「ならり」（10万部を年2回）の発行、日本語と多言語のマップ類の作成等を行っている。「なら菜」はデータブック的に、エリアごとの情報をたくさん掲載している。「ならり」は春夏・秋冬の半年ごとにテーマを決めて発行。インターネットによる情報発信では、ホームページと Facebook などの様々な SNS を活用している。
- ・ 海外でのプロモーションや、現地メディアへの情報提供も行っている。国内も同様だが、奈良に来る前の発地に情報を届けなければ意味がないので注力している。外国では台湾、オーストラリアに力を入れている。それ以外の国は、現地メディアを活用したプロモーションを行っている。
- ・ 着地型ツアーとして、神社仏閣のツアー以外に、ダムツアー、マンホールの工場見学等も実施している。これまでは、とにかく神社仏閣をアピールすればいいという感覚だったが、それでは神社仏閣と鹿を見るとすぐに奈良を離れてしまうため、食や体験を発信しようということで、様々なツアーを行っている。昨年は 52 種類実施した。旅行会社は利益が出ないツアーはやらない。協会だからこそできるツアーもあり、企画そのものが一つの宣伝になると考えている。

② 活動を進めるにあたっての課題

- ・ なら燈花会が昨年 20 周年を迎えた際の調査では、来場者 90 数万人のうち、半分は近隣の人で、宿泊者は 10 数%ということだった。20 年前の夏の奈良には観光客が来なかったのに、

これだけ来てもらえるようになったことは大きな変化だが、次は滞在時間を延ばして、消費を促すという段階にきている。

- ・ 協会のツアーには、外国人が参加できるような企画がない。英語の説明文を渡すことはできるが、外国語の説明付きでまわることができない。通訳付き個人ツアーでは値段が数万円になってしまふ。外国人向けの企画をつくって Web で紹介できるような体制が整っていない。
- ・ 奈良にはビーフもポークもチキンもあるが、露出が少ない。G20の晩餐会のメニューにも、奈良のものは一つもなかった。そのようなところに採用されるとメディアで取り上げられるので、興味を持ってもらえる。

③ 今後 10 年間で求められる取組

- ・ 奈良市は観光都市を標榜しているが、もっと観光を大きく打ち出してもよいのではないか。旅館や土産物屋は直接観光で稼いでいるが、間接的にも観光に関わっていない業種はほとんどない。そのような意味では、もっと大きく観光を主要産業として打ち出していくことが、市の経済を活性化させる。
- ・ JW マリオットホテルや、浮見堂周辺、少年刑務所跡もホテルになり、これまでにはなかったような宿泊施設が多く登場するため、観光に係る交通を整備する必要がある。
- ・ インバウンドに関しては、トリップアドバイザーで日本に関して調べるときに、「奈良」での検索率がかなり低い。外国人は、出発前にインターネットで調べ、観光するものを決めているので、案内所でも外国人の対応人数が減少している。そのため、発地での情報提供が必要であり、着地でも多様な情報を外国語で提供できれば、滞在時間も延長できると考えている。
- ・ 地元民の消費は地域外に流れており、市内の消費は観光に依存しているため、地域経済活性化のためには、もっと観光客を呼ばなければならない。また、観光客数は増えても、情報不足で宿泊率が上がらない。滞在中の選択肢が増えるような情報提供が必要である。
- ・ 奈良は朝がいいと言う人も多いので、朝の賑わいを作るために朝市を開催したりもいいのでは。商店街での夜市など、点の取組ではいろいろ面白いことが出てきているので、点が線になり、10年後には面になっていれば、もっと盛り上がると思う。そのような意味では、コーディネーター的な役割が重要になる。

④ 10 年後の奈良市の姿

- ・ 情報発信が充実して、観光客が多く集まるまち
- ・ 奈良市が観光のまちだと市民も認知し、まちをあげて観光を盛り上げていくまち

(8) 奈良商工会議所青年部 (YEG)

45 歳未満の若手経営者・後継者が、企業の発展と豊かな地域経済を築くことを目的として様々な活動を実施。

① 活動の概要

- ・ 会員の経営者としての資質向上や自己研鑽のほか、「なら奈良まつり」や「地域未来プロジェクト

ト～なら i s m～」をはじめとする地域でのイベントの開催、地域のイベントへの参加等を通じて、経済的な側面から地域を盛り上げることを目的としている。また、行政との意見交換会や、他地域の商工会議所との交流、上部団体である日本 YEG の事業への参加や出向等も行っている。

- ・ 9月開催の「なら奈良まつり」は、地域の方、子どもたちに喜んでもらえるような地域に根差したイベントとして開催し、今年が9回目である。小中学生やダンスの団体等に出演してもらっているほか、飲食店やヨーヨーすくいなどのブースを出しており、毎年多くの人に参加している。
- ・ 来年2月に開催する「地域未来プロジェクト～なら i s m～」は初めての試みで、講演に加え、学生と行政、YEG メンバーのディスカッションや、奈良の伝統野菜・伝統産業の体験を通じた奈良の魅力発信等を行う予定である。狙いは、学生を含む住民が奈良のことを考え、奈良に関わる機会を創出することであり、これをきっかけに、たとえ遠い将来でも、奈良で起業してみよう、奈良に住んでみようと思う人を増やし、奈良への人口の定着、産業の活性化を目標としている。そのため、メインターゲットはこれから進路を考えるタイミングであろう高校生としている。
- ・ 地域のイベントへの参加は、なら燈花会、平城京天平祭、春日野音楽祭、おんまつり、なら瑠璃絵など、様々である。YEG メンバーがそれぞれの実行委員会に入って活動している。地域イベントへの参加の根底には、イベントの開催によって奈良が活性化し経済が潤うという考え方がある。

② 活動を進めるにあたっての課題

- ・ 会員企業が抱える課題は、必要とする水準の人材を確保することが難しくなっていることである。特に若年層は人手不足が顕著である。奈良に住んでいる場合は、雇用条件のよい大阪に働きに行くことが多いし、人を確保できても、仕事が見つくと比較的早く辞めてしまうことがある。
- ・ また、女性の雇用についても、特に奈良に多い建設業など、現場がメインになる業種では、事業規模が大きくなければ、なかなか登用が進まないのが現実である。性別役割分担意識が根強く、共働きであっても、熱が出た時など、子どものケアがどうしても女性に偏ってしまうことが多く、男性の育休取得も進まない。この意識を是正できるのは教育しかないのではないか。
- ・ また、働き方改革により、年休5日間取得の義務付けや、最低賃金の上昇など、市内に多い労働集約型産業（菓子製造業やその包装をする事業者など）の経営基盤が揺らぐような状況になっている。そのため、最近では、警備会社がビルメンテナンスを手掛けたり、設計事務所が飲食業に進出したりと、第二創業的な動きが出てきている。
- ・ 事業承継も課題の一つである。奈良は教育水準が高く、進学や就職で外に出て行ってしまい、後継者がいないことが多い。それなりの規模がある企業なら、M&Aも進みやすいが、奈良市には中小・零細企業のほうが多いので、そのような企業の事業承継が特に問題である。経営者の子ども以外の方が事業を承継する場合、個人保証を付けないと銀行が融資してくれないが、それが敬遠されて、家族以外への承継も進まない。
- ・ 大阪や京都へのアクセスの良さが裏目に出て、奈良から営業所が減っているため、そのような企業から受注していた事業者の受注が大きく減少している。また、本社一括で発注するような大きな企業も少ない。

③ 今後 10 年間で求められる取組

- ・ 観光関連では、例えば、土産物製造は 8～9 割が京都のメーカーで、実は奈良市で製造している割合は小さい。もう少し奈良での生産を増やしたいが、建ぺい率や容積率の規制があり、工場を拡張することも難しいため、規制緩和が求められる。
- ・ 就業経験があり、子育てを終えた女性を雇用すると、仕事を長く続けてくれるため、非常に重宝している。ハローワーク等に求人を出しても、比較的応募が多い。また、シフト勤務の場合は、子育て中の人でも、働ける時間だけ働いてもらうことができる。そのような形でも女性の雇用を進めていくことが求められる。
- ・ 子どもからお年寄りまでが安全に暮らせて、ショッピングモールばかりではなく、地元の身近なお店で買い物ができるような地域づくりが必要である。また、観光はもちろんのこと、地域住民も奈良で遊んで食事をして、お金を使えるような場づくりが必要である。スポーツチームを中心として、スポーツでまちを盛り上げていくことも考えられる。
- ・ 観光に関しては、資源があっても点在している場合は、滞在時間の延長につながりにくい。ストーリーを展開し、ここに行ったら次はここ、次はここという形でコンテンツがつながっていけば、滞在時間の延長や宿泊につながっていくのではないかな。
- ・ 観光業は、伸ばせるところをとことんまで伸ばし、突き抜けていく必要がある。最近ホテルの進出が増えているが、大手資本は、インバウンドの増加も含めた奈良のポテンシャルをわかっている。平城宮跡で毎週末イベントを開催して活用するなど、平城宮跡の価値を高め、さらなるにぎわいの創出が求められる。
- ・ 空き家の問題に関しては、今後奈良市でも限界集落的な地域が出てくると思われるため、まちをコンパクトに畳んでいくことを検討する必要も出てくるのではないかな。これは、まちのことをよく知っている行政が中心となって考えてもらいたい。

④ 10 年後の奈良市の姿

- ・ ショッピングモールにかなわなくても、それにはない魅力があって、買いたいと思う店が集まっているまち
- ・ 老人と子どもが生き生きと安心して暮らしていけるまち
- ・ 県外の人とか海外の人が来たくなるような、わくわくする魅力があるまち
- ・ 地域の子どもが楽しめるコンテンツがあり、さらに、地域外の人魅力を感じてきてくれるまち
- ・ 子どもが外で遊べる場が充実しているまち
- ・ 県外、県内つながりながら商業、経済が発展していくようなまち
- ・ 世界とつながっていくことで発展していくまち
- ・ 魅力的な場所が有機的につながって、一つの文脈があるまち
- ・ 空き家が有効活用されるまち
- ・ 買い物難民がいないまち

- ・ 観光ナンバーワンのまち
- ・ コンパクトなまち
- ・ いいところは変わらずに、そうでないところはどんどん変わっていくまち

(9) 公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構

けいはんな学研都市の発展を目的に、経済団体、企業、大学、自治体等が参画し、調査研究、提言、都市づくりに関する企画立案、新産業創出などの産業振興等を行う。

※けいはんな学研都市：京都・大阪・奈良の3府県にまたがる、関西文化学術研究都市建設促進法に基づき、建設・整備を進めているサイエンスシティ。奈良市では、高の原エリア、平城宮跡エリアが該当。

① 活動の概要

- ・ 機構は、学研都市のまちづくりの総合調整を担ってきた。実際に事業を実施するのは、UR や不動産会社、鉄道会社等で、それぞれの役割があるが、けいはんな学研都市の理念に沿った統一性のある活動を行うため、機構が土地利用の方針など行政にも入ってもらい調整してきた。
- ・ 概ね10年ごとにステージプランを策定し、現在が第4次のプランになる。30年が経過し、次の10年に向けての「新たな都市創造プラン」を共有し、産官学がともにまちづくりに取り組んでいる。第4次プランの一番の特色は、イノベーションの創出拠点をつくることを目指している点であり、ここでベンチャー企業を生み出し、イノベーションのまちにしたいと考えている。
- ・ 文科省の事業で、先端技術を異分野と融合させてイノベーションを創出するリサーチコンプレックス事業を実施しており、4年目の今年が最終年。産学官連携のまちづくりというコンセプトや、最先端技術の研究機関と企業の集積に加えて、実証実験のフィールドがあること等が、事業の成果につながった。
- ・ 機構の中には、「RDMM 支援センター」（RDMM は研究、開発、ものづくり、マーケティングの頭文字）という組織がある。シーズ思考ではなく、ニーズから新しいサービスや製品をつくるという考え方で、コンソーシアムを形成し、100を超える会員の「こんなことがやりたい」という思いを、機構がファシリテーターとなって引き出し、形にしている。
- ・ また、「Club けいはんな」という会員組織には、近隣住民など2,500人以上の会員がおり、コンソーシアム参加企業のアンケートモニターや、アイデア出しワークショップの参加者として協力してくれている。企業の色がなく、純粹にけいはんな学研都市の今後や、よりよい生活を追及するという観点で会員が集まっている。
- ・ さらに、企業や研究所の立地に伴って入ってきた研究者と地域の住民との交流を促進し、けいはんなの活動を知ってもらうとともに、良好なコミュニティを形成することを目的に、市民公開講座などのイベントも実施している。

② 活動を進めるにあたっての課題

- ・ リサーチコンプレックス事業終了後も、けいはんなの各研究機関が有する脳情報科学や光レーザー等の尖った技術を異分野と融合させ、イノベーションを起こすような研究開発を引き続き行うとともに、研究の担い手を育成する必要がある。1を10にする力も必要だが、0から1を生

み出すイノベーションを起こすプロデューサーが必要である。

- ・ また、スタートアップをできるだけ多く輩出したいと取り組んでいるが、一朝一夕にできることではなく、その仕組みを確実に構築しなければならない。現在は、海外と連携しながらスタートアップを育成する仕組みづくりに取り組んでおり、同じく脳情報科学に力を入れているイスラエルと協定を結んでいるほか、域内に立地する ATR（株式会社国際電気通信基礎技術研究所）がカナダ最大の国立研究機関である NRC と産業技術分野における協定を結んでいる。

③ 今後 10 年間で求められる取組

- ・ 奈良市側のニュータウンは昭和 40 年代に開発されており、都市機能の更新が必要になる時期である。UR などの団地も建て替え時期になるが、全てが無理なら集約して、空いた土地に施設を入れ、高齢者や障がい者も含めた雇用の場、就業の場をつくってはどうか。また、産業というよりは、ちょっと仕事ができるワークスペースや、企業のサテライトオフィスのようなものができればよいのではないかと。まちが持続するためには、働く場が必要である。企業は環境もセットで立地場所を検討するので、そのような環境を提供すれば、まちの持続可能性につながる。
- ・ 研究機関は地元住民との接点がありなく、その間に入るのが公共団体である。この地域には多くの人々が住んでいて、住居形態も年代もバラエティに富んでいる。公共団体は、障がい者の就労の場をはじめとする社会的包摂やダイバーシティ、SDGs など、様々な主体が共通して取り組まなければならないテーマに関して、企業や研究所と地域とのマッチングができるのではないかと。
- ・ これまでは、建物を建て替えたり広場を改修したりというハード面でのリフレッシュが主だったが、今後は、最先端の技術を社会実装することで、まちをリフレッシュしていくことが必要である。具体的取組として、奈良市の年代の古い団地などで、商業施設が撤退し、高齢者が買い物難民になっているところもあるので、ニュータウンの道路は幅が広く、車の交通量も減っていることから、ここで自動運転の実証実験を行って、これを、例えば昭和 40 年代の団地である中登美ヶ丘をはじめとする他地域にも展開できるとよいのではないかと。けいはんなで花開いた成果を外にうまく展開していければと考えている。
- ・ 大安寺の新駅周辺を整備する際には、施設の誘致を図るなら単なる工場機能だけではなく、研究開発型の施設を誘致して知の拠点形成も図っていただきたい。けいはんなは、元々研究機関のみに限定していたが、同じ場所でものづくりをしてフィードバックしないと世界競争から立ち遅れてしまうということで、規制緩和をしたところ、研究開発型産業施設が立地して、息を吹き返した。ここで中堅・中小企業が大手の研究機関とコラボレーションして頑張っている。けいはんなとも連携が取れれば可能性は広がると思う。
- ・ 大阪・関西万博を見据えて、奈良市とコラボレーションがしたい。平城宮跡は素晴らしい宝であり、歴史遺産と最先端の技術を組み合わせるものに取り組みたい。

④ 10 年後の奈良市の姿

- ・ あらゆる人（障がいのある人、高齢の人）が先端技術で働きながら住めるまち

(10) 地域教育協議会(総合コーディネーター)

中学校区ごとに設置。学校、家庭、地域が連携して子どもの教育活動の充実、地域の教育力の再生、地域コミュニティの活性化を図る。

※総合コーディネーター：学校・園・地域・行政等と連携しながら協議会活動全体を見渡してコーディネートする。

① 活動の概要

- ・ 地域教育協議会は、平成 20 年に市内全中学校区で一斉にスタートした。協議会設立時は、メンバーの選定が中学校長に任されていたため、メンバーの構成は校区によって様々である。元 PTA、自治連合会等地域で活動している人以外に、地域内の企業関係者、大学教員が参加している校区もある。
- ・ 協議会の目的は、子どもたちが真の生きる力を身に着け、また、自分の住んでいる地域に誇りをもって育つように、学校園と連携してサポートすることである。
- ・ 総合コーディネーターは、行政と地域教育協議会のつなぎ役（情報収集と伝達）としての活動がメインである。
- ・ 協議会の活動には、様々な主体と連携して活動することにより、緩やかなネットワークを築き、学校を中心に地域を活性化するという側面もある。基本的には中学校区内の活動だが、事業者等、校区外の主体との連携も視野に入れている。また、各校区の総合コーディネーターが集まる機会もあるため、そこでも情報を共有している。

[放課後学習]

- ・ 中学生の居場所づくりを兼ねた放課後学習を実施。やり方やスタートした時期は地域によって様々で、数学や漢字講座、理科実験講座をしている場合もある。学習内容をボランティアと一緒に考えたり、学校のニーズに合わせたり、目的によって様々なやり方を設定したり、来やすい雰囲気を作るために考えて取り組んでいる。

[キャリア教育]

- ・ 中学生を対象とした職場体験の際、コーディネーターが学校と事業所をつなぐ役割を担っている。教員ではなく地域の人間としてお付き合いをしているので、課題や問題があっても気軽に話していただけるような関係が作れていて、学校の考え方とずれがないか確認したり、上手く情報を届けたりできている。
- ・ 平成 23 年から 2 年間、文科省がキャリア教育の視点から実施した「学区ブランド産品プログラム」で、子どもと地域住民がともに地域産品を商品化するという事業にチャレンジした校区も複数ある。

[地区により特色のある活動]

- ・ 学校行事を表示したコミュニティカレンダーをつくっている。学校の情報発信ができ、地域の人にも学校の様子や協議会の活動を知ってもらえる。
- ・ 学校の先生と子どもを対象にアンケートを実施し、学校が必要としていることを把握し改善するために役立っている。結果は学校や地域にもフィードバックしている。
- ・ アルミ缶を回収し、大人が収集して子どもが缶をつぶす作業をして、24 年間で車いすを 100

台以上寄付した。

- ・ 教育課程に組み込まれている「ふるさと学習」で、地域の伝統芸能や紅花染、手もみ茶づくりなどを実施している。また、他校との交流を通じて、自分の地域のよさを知り子どもたちも生き生きしている。

② 活動を進めるにあたっての課題

- ・ 高齢者が多い地域と、若い世代の転入者が多い地域が二分化されており、交流が進まないことや、活動の担い手が探し切れていないことが、課題である。活動をもっと地域の人に知ってもらい、関わってもらいたいし、もっと動けるように世代交代もしていかなければならない。
- ・ 実働してくれる人をいかに巻き込むかが課題である。若い親世代は、生活がかかっているため働くのに必死だが、巻き込むことができれば、長期間関わってもらえるという利点がある。子育てが終わったぐらいの世代に声をかけることを検討しており、公民館に学びに来ている団体に声をかけるなど、「得意な分野で一緒に楽しみませんか」という広報をしていきたい。
- ・ この活動はコーディネーターの存在が肝になる。第一世代は何もない状態から手探りで積み上げてきたが、今後世代交代を考えるにあたり、それらの事業が既にある状態で、それを承継し、発展させてくれる人材を探すことが難しい。学校の事情を理解でき、地域と付き合える人で、つながることにやりがいや喜びを感じられる人を探す必要がある。学校に代わって頭を下げられるかどうか、コーディネーターになれるかなれないかのポイントである。

③ 今後 10 年間で求められる取組

- ・ 活動を 10 年続けて感じられるのは、自分の地域のことをあまり理解していなかった子どもたちが、ここ数年は、活動を通じて地域の存在や自分と地域とのつながりを意識するようになってきているなどの変化である。時間をかければ変化が生まれるので、今後も活動を続けていきたい。
- ・ 最近では、中学の時に活動に関わった子どもが、高校生、大学生になって、ボランティアとして帰ってきてくれるようになった。子どもたちが、自分が大人になった時にも地域と関わりたいと思ってくれるような取組を続けたい。
- ・ このような活動が始まる前には、学校と地域社会は分断されていたが、学校が地域と融合して地域に開かれないと、学校だけでは子どもが学びきれないことも多い。安全のことも含めて、学校と地域が子どもを見守り、育てていくという姿が必要である。将来的には、中学校区の枠も超えて、地域社会のつながりが広がっていくとよいと思う。
- ・ つながりが広がれば、分野に関係なく、いろんな視点で課題解決に参画できる。高齢者が観光について考えてもよいし、商工会議所が学校の課題解決に取り組んでもよい。そのような環境をつくるには、奈良市としての求心力が必要だが、そのようなネットワークが広がると、面白い奈良市になると思う。
- ・ 月ヶ瀬では、中学生が自ら観光戦略課をつくることを発案して、1月の観梅期の前に近鉄奈良駅前 PR をする活動が、5年ほど続いている。また、キャリア学習での紅花商品づくりなど、10年後も、文化を紡いで発信するとともに、地域と学校、大人と子どもと一緒に新しいものを作っていきたい。

- ・ 地域にも、学校を支援したい人や、自らがもっと学びたい人が多くいるが、学校の活動を知らない人や、地域の資源を知らない人が多く、もったいないと思った。子どもと大人が一緒になって地域活性化に取り組んでほしいと考えている。

④ 10年後の奈良市の姿

- ・ 地域に誇りを持てる子どもが育ち、次の世代を育てるまち
- ・ 学校を核とした緩やかなネットワークがあり、他地域ともつながる、子どもも大人も一緒に成長できるまち
- ・ 世代を超えて地域の文化を繋ぎ、その文化を発信していくまち

VI. 市民意識調査

1. 調査概要

市民の方々が日ごろの生活で感じていることや市政についてのご意見などを尋ね、これからの市政のあり方を考えていくにあたっての基礎資料とするため、「奈良市民意識調査」を実施した。

実施期間：令和元年8月19日（月）～31日（土）

※インターネット回答の場合は9月8日（日）まで

対 象：奈良在住18歳以上の男女から3,000人を無作為に抽出

回収状況：配布数3,000件、有効回答数：1,573件、回収率：52.4%

調査項目（※）：

【質問項目】

- ①奈良市に住んでよかったですか。
- ②奈良市に愛着を感じていますか。
- ③奈良市が教育充実のために取り組んでいる施策について、現状でどの程度満足していますか。『幼児教育の充実』
- ④奈良市が教育の充実のために取り組んでいる施策について、現状でどの程度満足していますか。『義務教育・高等学校教育の充実』
- ⑤奈良市が教育充実のために取り組んでいる施策について、現状でどの程度満足していますか。『青少年の健全育成』
- ⑥現在住んでいるところにこれからも住み続けたいと思いますか。
- ⑦市政に関心がありますか。
- ⑧奈良市の「市民と協働する市政の推進」に関する取組みについて満足していますか。
- ⑨奈良市の取組で評価するものはどれですか。
- ⑩奈良市が今後さらに力をいれるべきだと思うものはどれですか。

【属性】

性別、年齢、同居家族の構成、婚姻状況、子の有無、子の就学状況等（居住状況含む）、同居家族の状況、職業等（通勤・通学先、通勤・通学時間を含む）、普段の移動手段、居住地域

※…市民意識調査は定期的に実施しているもので、質問項目も市政全般の多岐に亘るものであり、詳細な報告書は別途作成予定。そのため、本報告書では主に総合計画策定に関係する項目の結果のみ抜粋して記載している。

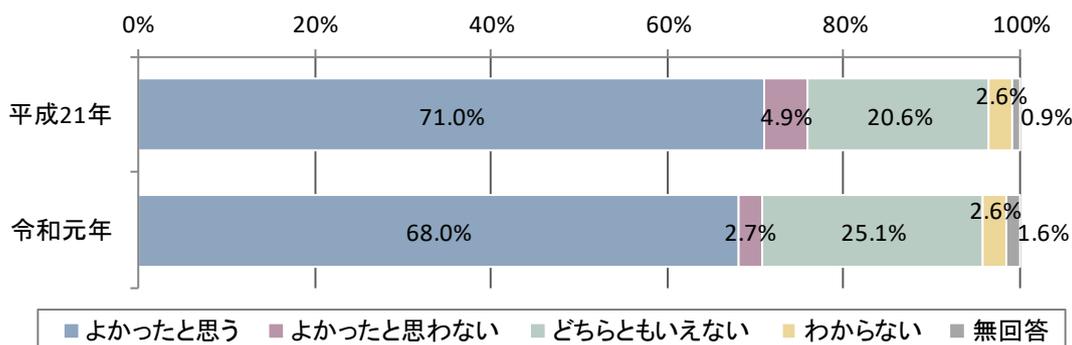
具体的には、定点で第4次総合計画策定時にも把握している「まちづくりの指標」に設定している項目（図表VI-1～8）及び、現在の市の取組みの評価の項目（図表VI-9）と今後力をいれるべき分野の項目（図表VI-10）の結果について記載。以下「2. 調査結果」についても同様。

2. 調査結果

2009年（平成21年）の市民意識調査では、71%の市民が「奈良市に住んで良かったと思う」と回答していることから、本市では、2020年（令和2年）に「奈良市に住んで良かったと思う」市民が80%以上になることを目標としている。

2019年（令和元年）に実施した市民意識調査では、「奈良市に住んで良かったと思う」と回答した市民が68%となっている。

図表 VI-1 市民意識調査「あなたは、奈良市に住んで良かったと思いますか。」



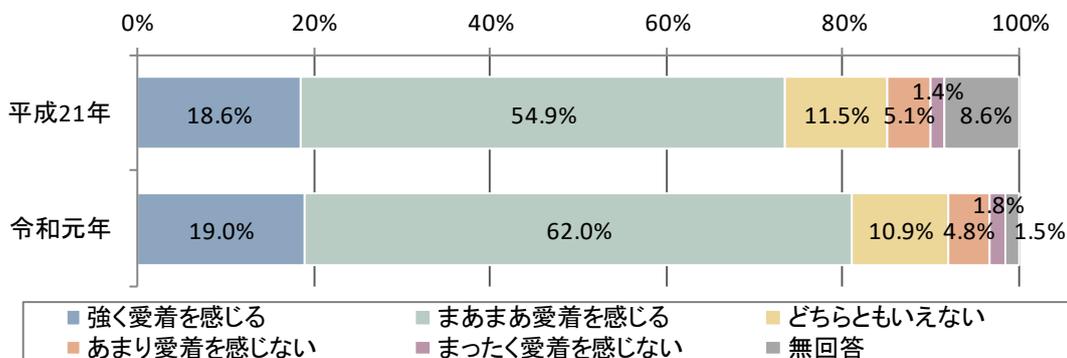
2009年（平成21年）の市民意識調査では、約74%の市民が「奈良市に愛着を感じている」と回答していることから、本市では、2020年（令和2年）に「奈良市に愛着を感じている」市民が80%以上になることを目標としている。

2019年（令和元年）に実施した市民意識調査では、「奈良市に愛着を感じている」と回答した市民が81%となっている。

また、本市が教育のために取り組んでいる施策である幼児教育、義務教育、高等教育や青少年の健全育成については、2009年（平成21年）の市民意識調査では、いずれも「満足」または「やや満足」と感じている人が25%前後であったことから、2020年（令和2年）には50%以上になるよう努めることとしている。

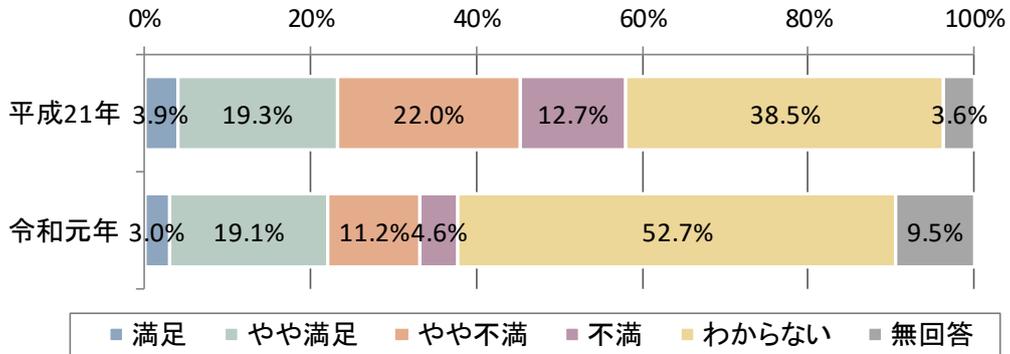
2019年（令和元年）に実施した市民意識調査でも、それぞれの項目に「満足」または「やや満足」と感じている人の割合は大きく変わらず、25%前後となっている。

図表 VI-2 市民意識調査「あなたは、奈良市に愛着を感じていますか。」



図表 VI-3 市民意識調査「あなたは、奈良市が教育の充実のために取り組んでいる

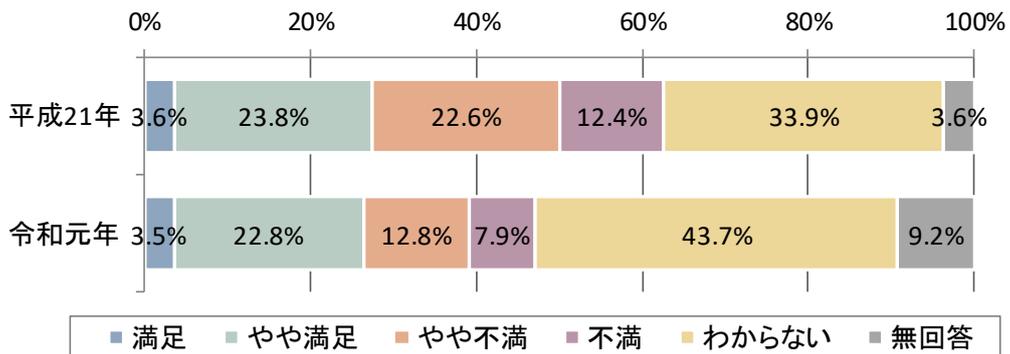
施策について、現状でどの程度満足していますか。『幼児教育の充実』



図表 VI-4 市民意識調査「あなたは、奈良市が教育の充実のために取り組んでいる

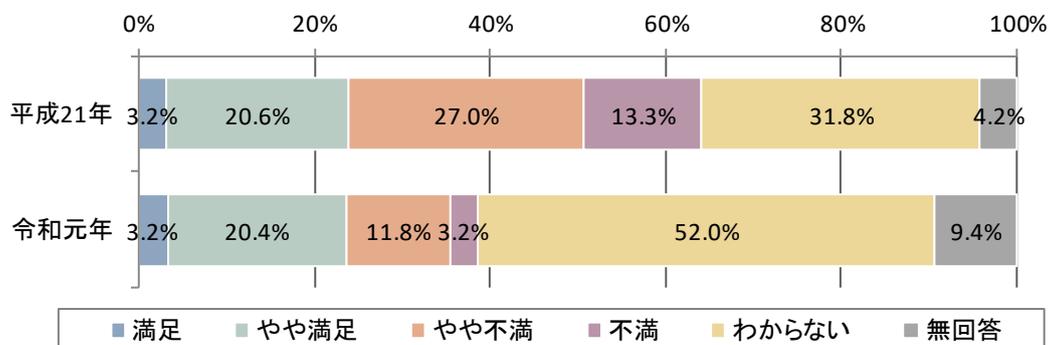
施策について、現状でどの程度満足していますか。『義務教育・高等学校

教育の充実』



図表 VI-5 市民意識調査「あなたは、奈良市が教育の充実のために取り組んでいる

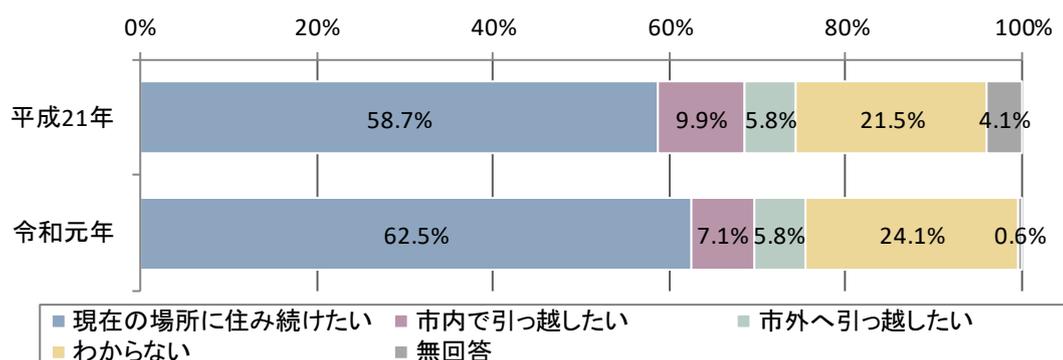
施策について、現状でどの程度満足していますか。『青少年の健全育成』



2009年（平成21年）の市民意識調査では、約69%の市民が「奈良市に住み続けたい」と回答していることから、本市では、2020年（令和2年）に「奈良市に住み続けたい」市民が80%以上になることを目標としている。

2019年（令和元年）に実施した市民意識調査では、「奈良市に住み続けたい」と回答した市民が約70%となっている。

図表 VI-6 市民意識調査「あなたは、現在住んでいるところにこれからも住み続けたいと思いますか。」



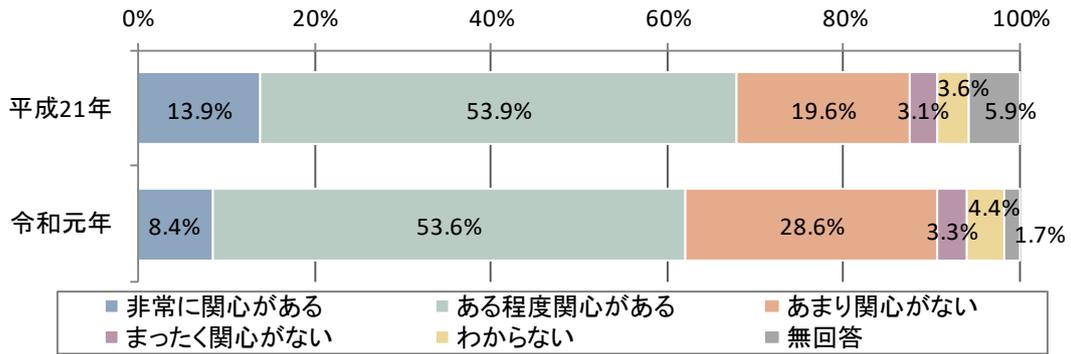
2009年（平成21年）の市民意識調査では、約68%の市民が「市政に関心がある」と回答していることから、本市では、2020年（令和2年）に「市政に関心がある」市民が75%以上になることを目標としている。

2019年（令和元年）に実施した市民意識調査では、「市政に関心がある」と回答した市民が62%となっている。

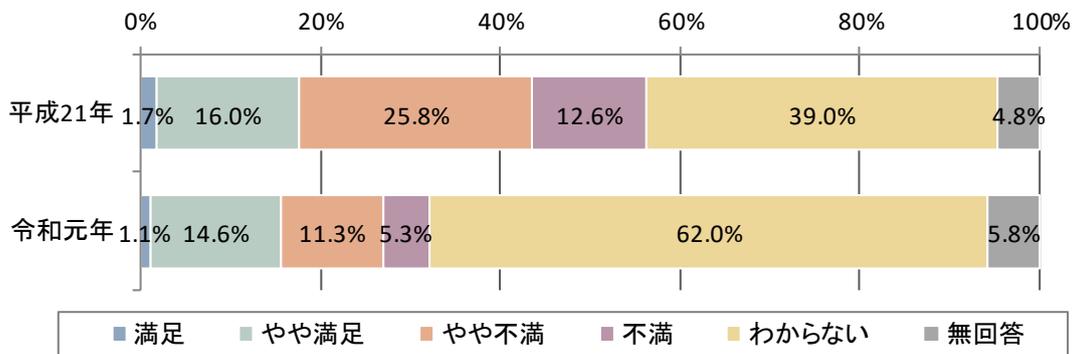
また、本市が市民参画のために取り組んでいる施策である市民との協働による市政の推進については、2009年（平成21年）の市民意識調査では、「満足」または「やや満足」と感じている人が約18%であったことから、2020年（令和2年）には50%以上になるよう努めることとしている。

2019年（令和元年）に実施した市民意識調査でも、「満足」または「やや満足」と感じている人の割合は大きく変わらず、約16%となっている。

図表 VI-7 市民意識調査「あなたは、市政に関心がありますか。」

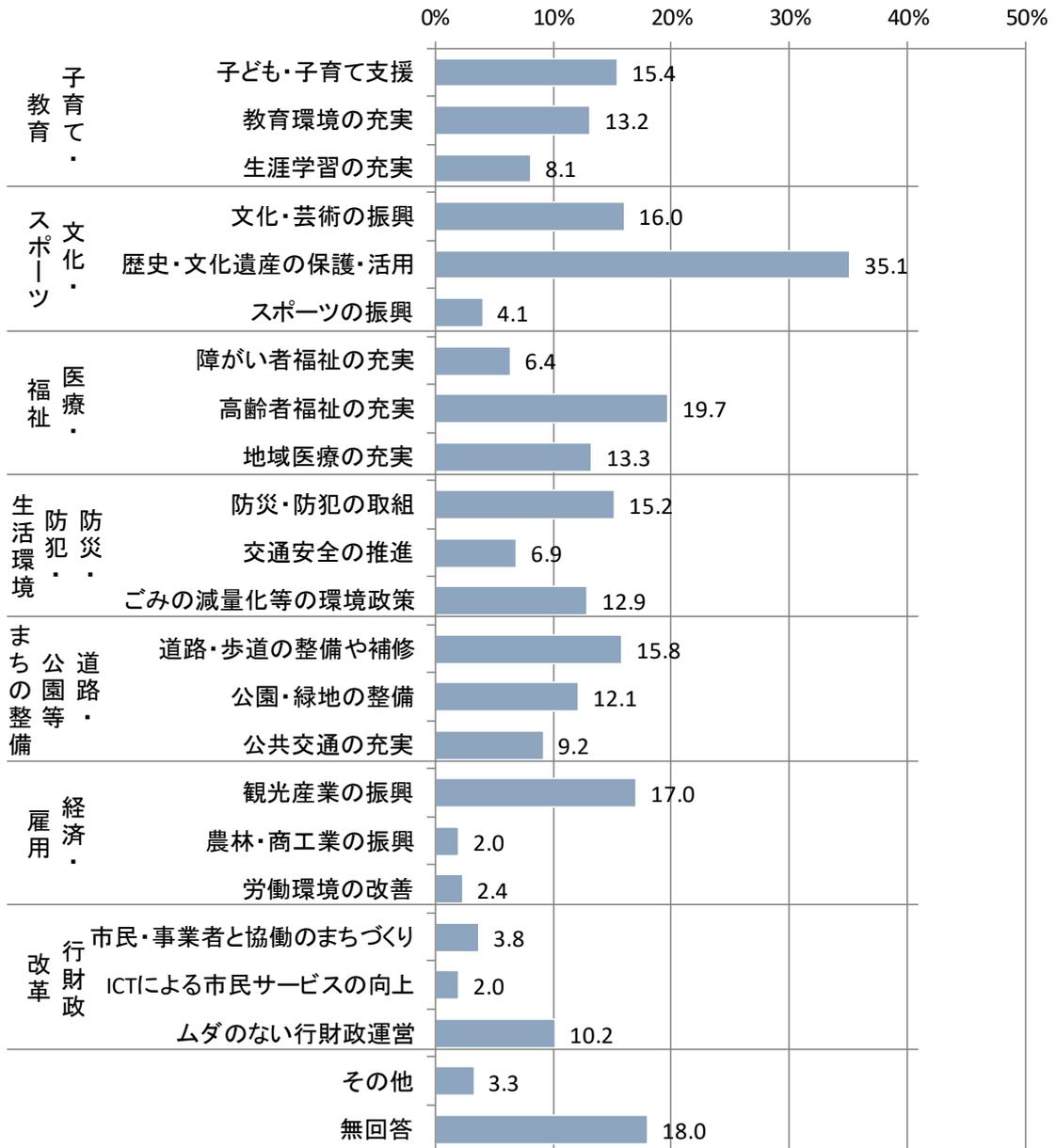


図表 VI-8 市民意識調査「あなたは、奈良市の「市民と協働する市政の推進」に関する取組について満足していますか。」



奈良市の取組で評価するものは「歴史・文化遺産の保護・活用」が 35.1%で最も高く、次いで、「高齢者福祉の充実」19.7%、「観光産業の振興」17.0%となっている。

図表 VI-9 市民意識調査(令和元年)「あなたが、奈良市の取組で評価するものは
どれですか。」



奈良市の取組で今後さらに力をいれるべきものは「高齢者福祉の充実」が 42.3%で最も高く、次いで、「ムダのない行財政運営」38.4%、「道路・歩道の整備や補修」38.1%となっている。

図表 VI-10 市民意識調査(令和元年)「あなたが、奈良市の取組で今後さらに力をいれるべきだと思うものはどれですか。」

